

淀川水系猪名川上流ブロック河川整備計画（変更原案）

<参考資料>

平成29年3月

大阪府

目次

第1章	河川整備計画の目標に関する事項	1	第2章	河川整備の実施に関する事項	64
第1節	流域及び河川の概要	1	第1節	河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要	64
1.	流域の概要	1	1.	洪水対策	64
2.	流域の特性	2	2.	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持	71
3.	河川の特性	21	3.	河川環境の整備と保全	71
第2節	河川整備の現状と課題	24	第2節	河川の維持の目的、種類及び施行の場所	71
1.	治水の現状と課題	24	1.	河川管理施設	71
2.	河川利用及び河川環境の現状と課題	26	2.	許可工作物	72
第3節	流域の将来像	31	3.	河川空間の管理	72
第4節	河川整備計画の目標	35	第3章	その他河川整備を総合的に行うために必要な事項	73
1.	洪水による災害の発生の防止または軽減に関する目標	35	第1節	地域や関係機関との連携に関する事項	73
2.	河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	36	第2節	河川情報の提供に関する事項	73
3.	河川環境の整備と保全に関する目標	37			
4.	河川整備計画の計画対象区間	37			
5.	河川整備計画の計画対象期間	37			
6.	本計画の適用	37			

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

1. 流域の概要

淀川水系猪名川上流ブロックは、北摂山系にその源を發し、一庫ダム湖である知明湖に注ぎ込む、一庫・大路次川、山田川、山辺川、長谷川、田尻川、野間川、木野川、大原川の一級河川の流域から構成されています(図-1.1)。

それぞれの流域面積は、一庫・大路次川 63.1 km²、山田川 12.8 km²、山辺川 18.4 km²、長谷川 4.1 km²、田尻川 18.2 km²、野間川 12.9 km²、木野川 3.9 km²、大原川 2.6 km²となっており、流路延長は一庫・大路次川で10.4 km、山田川 4.7 km、山辺川 5.5 km、長谷川 2.3 km、田尻川 8.3 km、野間川 4.1 km、木野川 1.9 km、大原川 1.5 km となっています(表-1.1)。流域は、能勢町、豊能町、京都府亀岡市の1市2町にまたがり、その大部分は、能勢山間盆地群と呼ばれる盆地地帯と北摂山地により構成されています。

流域のほとんどが市街化調整区域で、山林と水田が土地の大半を占め、大阪府の中でも、のどかな農村空間の広がる豊かな自然環境が残された地域の一つとなっています。

表-1.1 対象河川諸元

河川名	流域面積	指定区間延長
一庫・大路次川	63.1km ²	10.4km
山田川	12.8km ²	4.7km
山辺川	18.4km ²	5.5km
長谷川	4.1km ²	2.3km
田尻川	18.2km ²	8.3km
野間川	12.9km ²	4.1km
木野川	3.9km ²	1.9km
大原川	2.6km ²	1.5km



一庫ダム

出典: 独立行政法人水資源機構 HP

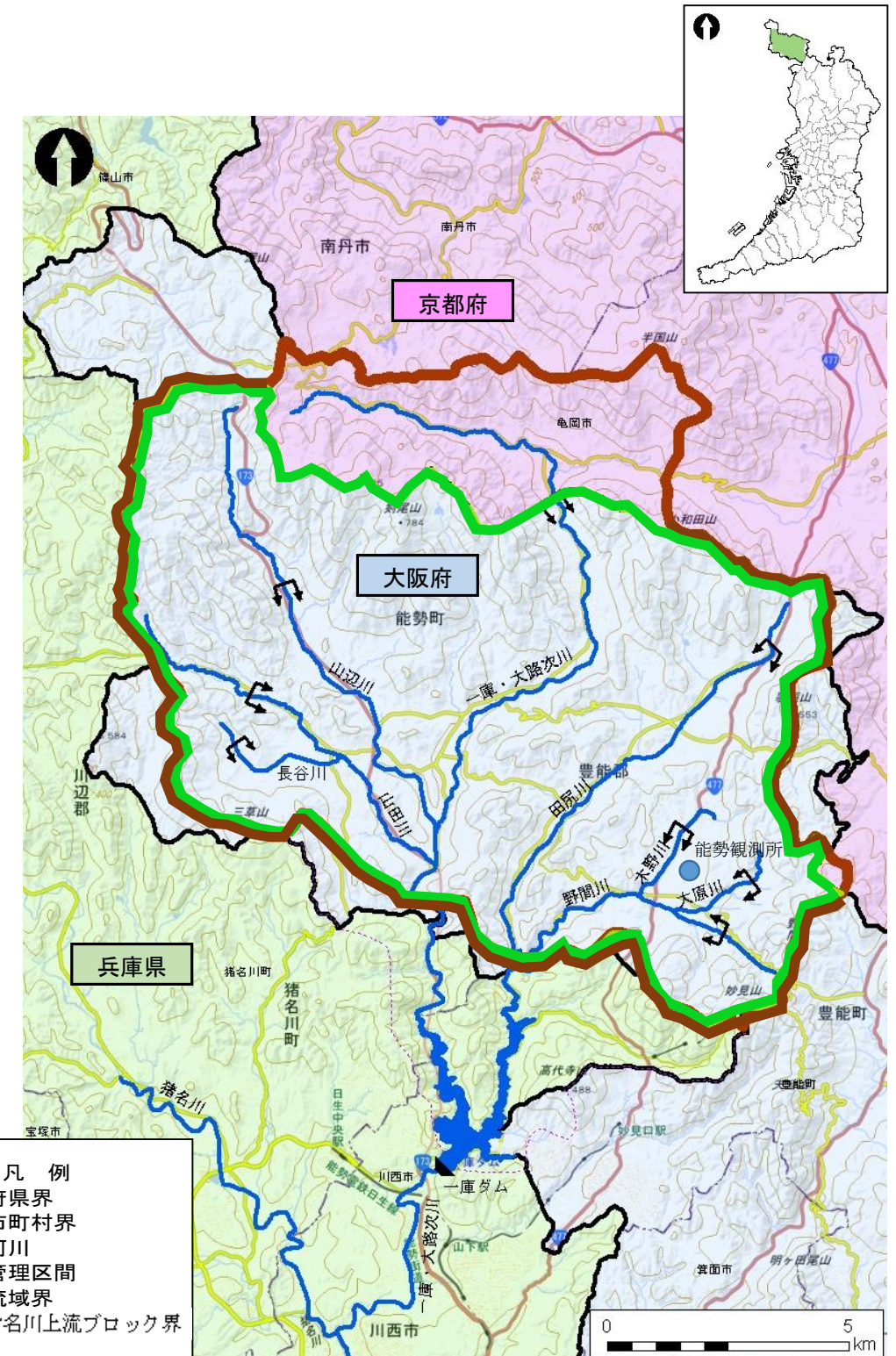


図-1.1 猪名川上流ブロック流域図

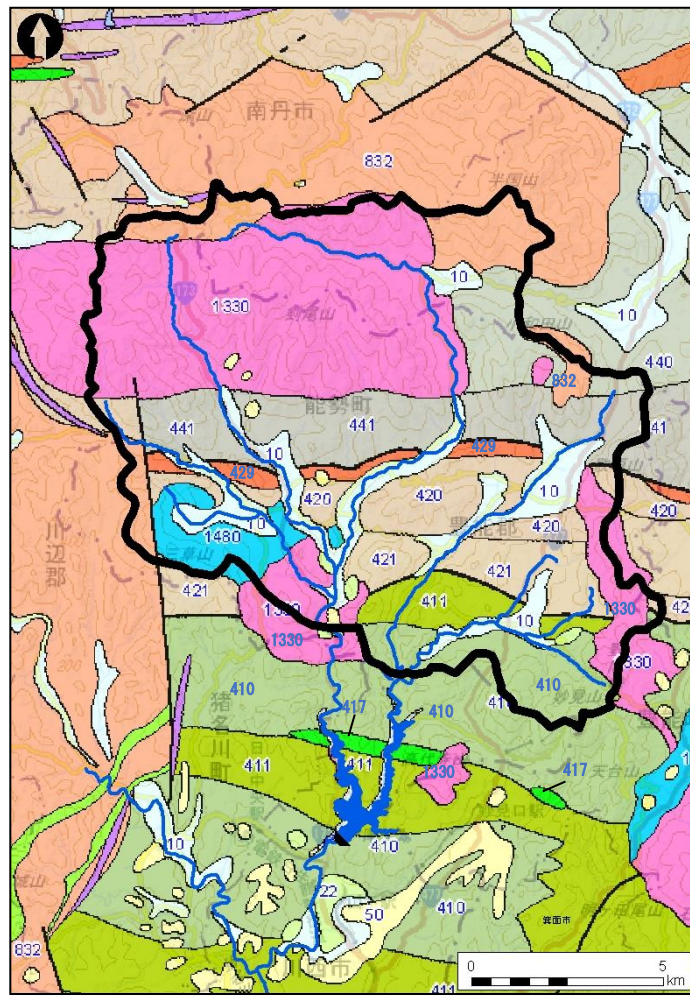
2. 流域の特性

(1) 自然環境特性

1) 地形・地質

猪名川上流ブロックの地形は、中起伏または小起伏山地で占められる北摂山地と呼ばれる山地地形と、河川沿いの扇状地状の平地と中・低位段丘で構成されています。平地は、一庫・大路次川、田尻川、野間川等の浸食、運搬、堆積作用によって形成されたもので、標高は平地でも約 200m に達します。

地質は、固結堆積岩の砂岩、泥岩および花崗岩が主に分布しており、流域西部の兵庫県界付近には火山性岩石の流紋岩質岩石も分布しています(図-1.2)。河川沿いの平地は沖積砂層、礫層で構成されています。また、田尻川の中流部や、その他の河川の上流端付近においては断層がみられます。



凡例	
10	堆積岩類
410	堆積岩類
411	付加コンプレックス
420	付加コンプレックス
421	付加コンプレックス
429	付加コンプレックス
441	付加コンプレックス
832	火山岩類
1330	深成岩類
1480	深成岩類
	後期更新世-完新世(H)の海成または非海成堆積岩類
	ペルム紀(P)の付加コンプレックスの基質
	ペルム紀(P)の付加コンプレックスの砂岩層
	前-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスの基質
	前-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスの砂岩層
	前-中期ジュラ紀(J1-2)の付加コンプレックスのチャートブロック(石炭紀-後期三畳紀)
	中-後期ジュラ紀(J2-3)の付加コンプレックスの砂岩層
	後期白亜紀(K2)の非アルカリ珪長質火山岩類
	後期白亜紀(K2)の珪長質深成岩類
	後期白亜紀(K2)の苦鉄質深成岩類

図-1.2 表層地質図

出典: 20 万分の 1 日本シームレス地質図 詳細版(独立行政法人産業技術総合研究所、2011)

2) 気候

猪名川上流ブロックの気候は、温暖な瀬戸内式気候に属し、流域内にある大阪管区気象台能勢観測所における昭和 56 年から平成 22 年までの 30 年間の年平均気温は約 13.5℃で、年降水量は約 1,400mm (全国平均約 1,700mm) です(図-1.3)。

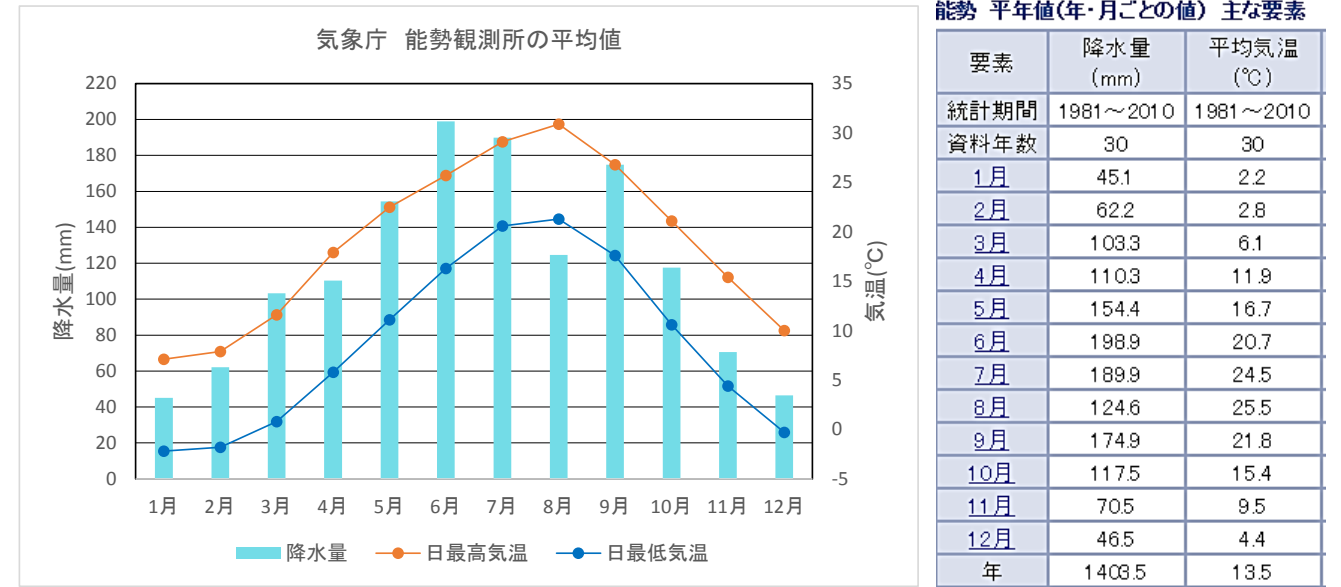


図-1.3 能勢観測所(気象庁)における月別の降水量と気温(昭和 56 年~平成 22 年の平均値)

出典: 気象庁 HP より作成

3) 自然環境

① 植生

猪名川上流ブロックの植生は、自然環境保全基礎調査¹⁾ (第6～7回)の現存植生図によると、山地部の大部分をスギ・ヒノキ・サワラ植林、アベマキ・コナラ群集で占めており、一部に、伐採跡地群落²⁾が見られます。また、河川周辺は水田雑草群落³⁾が見られます。特定植物群落⁴⁾として、流域内に「能勢妙見山のブナ林」が見られ、周辺には、「三草山のナラガシワ林」や「北摂のクヌギ群落」が見られます(図-1.5)(図-1.6)(表-1.2)。

一方で、近年、北摂全体でナラ枯れ被害の報告がされています。

大阪府では北摂山系に点在する10地区(2,594ha)を「大阪府立北摂自然公園」に指定し、里山の保全に取り組んでいます。10地区のうち、流域内に「天王地区」「山辺地区」「剣尾山地区」「小和田山地区」の4地区(図-1.4)が含まれ、今でも自然環境が残されている地域と言えます。

流域の周辺で平成22年度に兵庫県が実施した、ひょうごの川・自然環境調査によれば、調査対象区間において19基本分類、88群落の植生が確認されています。イワタバコ群落、ハマボウ群落(植栽)、トウネズモチ群落、ナンキンハゼ群落、オオカワヂシャ群落、コゴメイ群落、ケチョウセンアサガオ群落が確認されています。



図-1.4 大阪府立北摂自然公園



剣尾山地区(剣尾山)

出典:大阪府 HP(右側写真含む)

¹⁾ 自然環境保全基礎調査: 全国的な観点から我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備するために、環境省が昭和48年度より自然環境保全法第4条の規定に基づきおおむね5年ごとに実施している調査。第1回は昭和48年度に実施。第2回は昭和53・54年度で実施。第3回は、昭和58～62年度で実施。第4回は、昭和63～平成4年度で実施。第5回は平成5～10年度で実施。第6回は、平成11年～16年度で実施。第7回は、平成17年度～実施。(環境省自然環境局生物多様性センターHPより。)

²⁾ 伐採跡地群落: 森林の伐採跡地に形成された草本群落、または高さ1m前後の落葉広葉低木群落。

³⁾ 水田雑草群落: 水田雑草から構成される植物群落。

⁴⁾ 特定植物群落: 環境省が各都道府県に委託して行っている自然環境保全基礎調査において定められた「特定植物群落選定基準」に該当する植物群落。

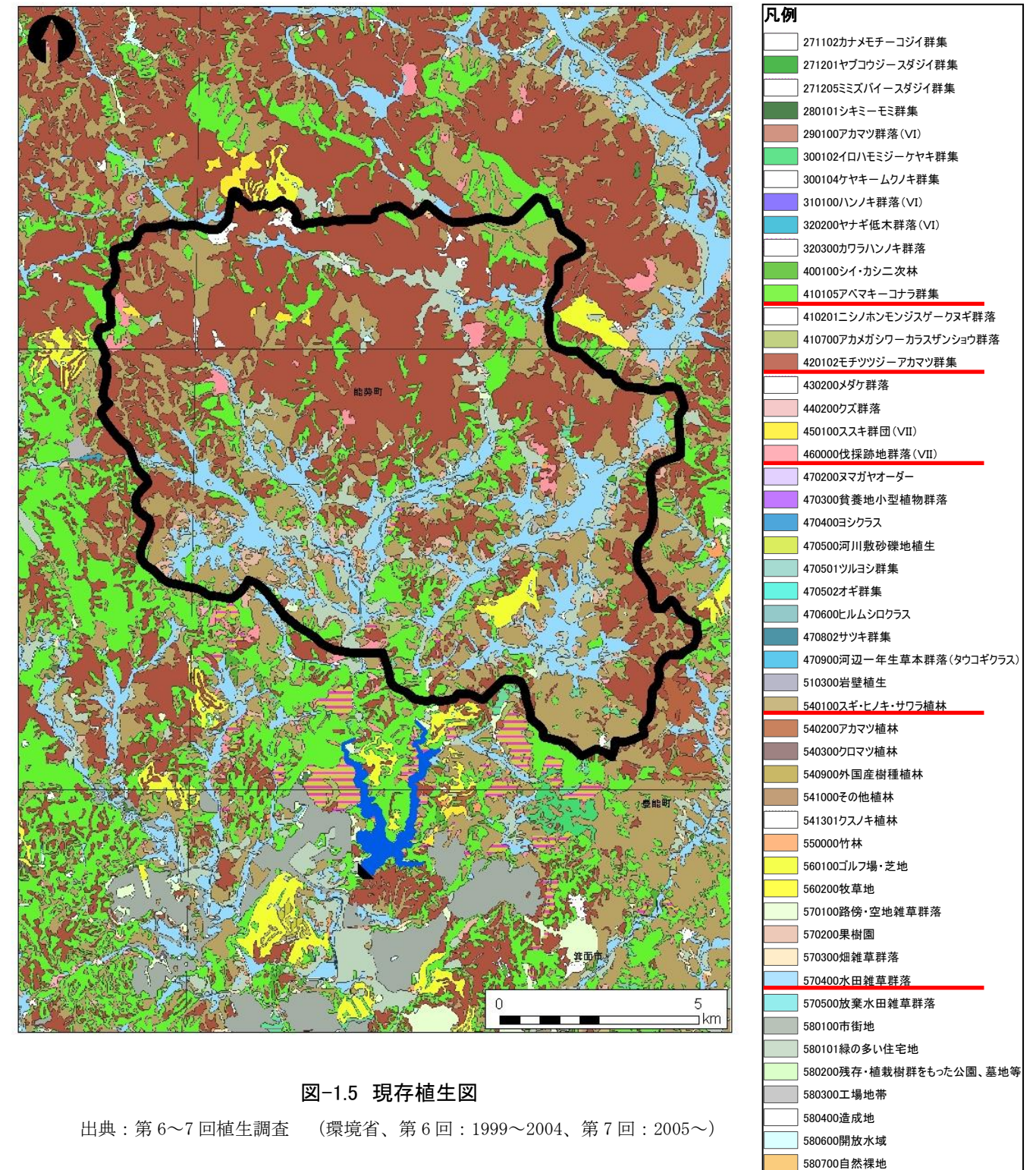


図-1.5 現存植生図

出典: 第6～7回植生調査 (環境省、第6回:1999～2004、第7回:2005～)

【特定植物群落】

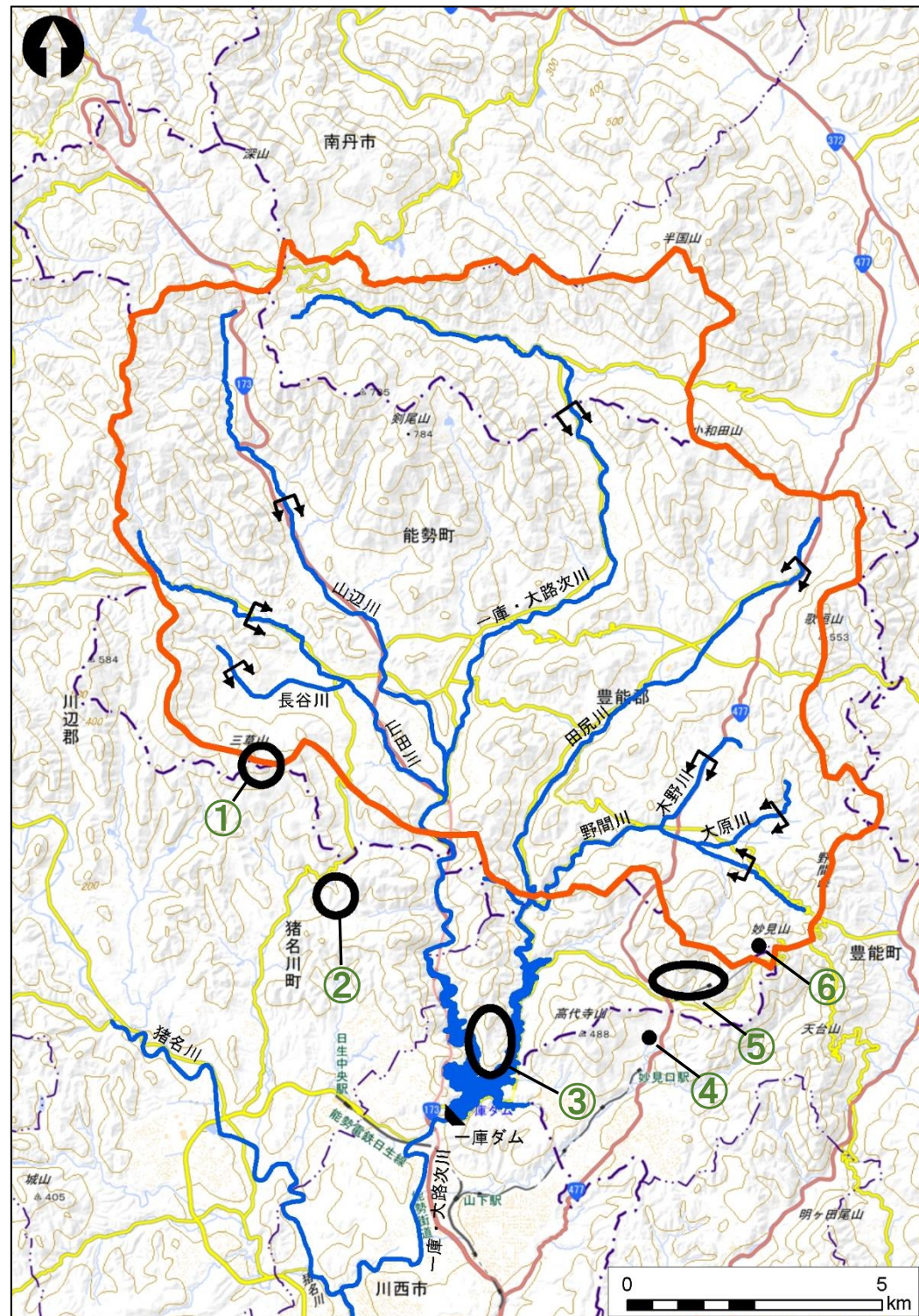


図-1.6 特定植物群落

出典：第2、3、5回特定植物群落調査（環境庁、1978、1984～1986、1997～1998）

表-1.2 特定植物群落

番号	名称	選定基準
①	三草山のナラガシワ林	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの;その他、学術上重要な植物群落または個体群
②、③、⑤	北摂のクヌギ群落	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
④	吉川神社のシイ林	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの
⑥	能勢妙見山のブナ林	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群



能勢妙見山のブナ林（「妙見山のブナ林」として府天然記念物に指定）

写真出典：大阪府 HP

②鳥類

猪名川上流ブロックの鳥類は、平成 26 年度に近隣の妙見山周辺で大阪府が実施した鳥獣保護区指定調査によると、32 科 78 種の生息が確認されており、水辺周辺に生息する種としては、カルガモ、キセキレイ、セグロセキレイ等が確認されています。貴重種としては、里山に生息するオオタカ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧、大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）、サシバ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類）等が確認されています（表 - 1.3）。



【オオタカ】



【サシバ】



【ハチクマ】



【ハイトカ】



【ハヤブサ】



【サンショウクイ】

写真出典：日本の野帳（山と溪谷社、1994）

表-1.3 鳥類確認状況

科名	種名	重要種選定基準	
		環境省レッドリスト (2015)	大阪府レッドリスト (2014)
キジ科	キジ		
カモ科	カルガモ		
ハト科	キジハト		
	アオハト		
サギ科	アオサギ		
	ダイサギ		
カッコウ科	ホトギス		
	ツツドリ		準絶滅危惧(NT)
	カッコウ		
タカ科	ハチクマ	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
	トビ		
	ハイトカ	準絶滅危惧(NT)	
	オオタカ	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
	サシバ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
	ノスリ		準絶滅危惧(NT)
フクロウ科	フクロウ		準絶滅危惧(NT)
キツキ科	コゲラ		
	アカゲラ		
	アオゲラ		
ハヤブサ科	ハヤブサ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
サンショウクイ科	サンショウクイ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅱ類(VU)
カササギヒタキ科	サンコウチョウ		
モズ科	モズ		
カラス科	カケス		
	ハシボソガラス		
	ハシブトガラス		
キクイタダキ科	キクイタダキ		
シジュウカラ科	ヤマガラ		
	ヒガラ		
	シジュウカラ		
ヒバリ科	ヒバリ		準絶滅危惧(NT)
ツバメ科	ツバメ		
	コシアカツバメ		準絶滅危惧(NT)
	イワツバメ		
ヒヨドリ科	ヒヨドリ		
ウグイス科	ウグイス		
	ヤブサメ		
エナガ科	エナガ		
ムシクイ科	メボソムシクイ		
	センダイムシクイ		準絶滅危惧(NT)
メジロ科	メジロ		
レンジャク科	ヒレンジャク		
キバシリ科	キバシリ		
ミソサザイ科	ミソサザイ		
ムクドリ科	ムクドリ		
ヒタキ科	トラツグミ		準絶滅危惧(NT)
	クロツグミ		
	マミチャジナイ		
	シロハラ		
	アカハラ		
	ツグミ		
	コマドリ		
	ルリビタキ		
	ジョウビタキ		
	ノビタキ		
	イソヒヨドリ		
	エゾビタキ		
	コサメビタキ		絶滅危惧Ⅱ類(VU)
	キビタキ		
	オオルリ		
イワヒバリ科	カヤクグリ		
スズメ科	スズメ		
セキレイ科	キセキレイ		
	ハクセキレイ		
	セグロセキレイ		
アトリ科	アトリ		
	カワラヒワ		
	マヒワ		
	ベニマシコ		
	ウソ		
	シメ		
	イカル		
ホオジロ科	ホオジロ		
	カシラダカ		準絶滅危惧(NT)
	ミヤマホオジロ		準絶滅危惧(NT)
	アオジ		
	クロジ		
(キジ科)	コジュケイ		
32科	78種	6種	14種

出典：鳥獣保護区指定調査報告書（大阪府、平成 26 年度）

③哺乳類

猪名川上流ブロックの哺乳類は、近隣の一庫ダム周辺で平成 23 年度に国が実施した河川水辺の国勢調査によると、13 科 18 種の生息が確認されており、水辺周辺に生息する種としては、ヌートリア（特定外来生物）が確認されています。貴重種は確認されていません。また、過去には、自然環境保全基礎調査（第 2 回、第 4 回）において、大型獣として、山間部ではアナグマ、キツネ、タヌキ、ニホンイノシシ、ニホンザル、ニホンジカが、平地部ではタヌキ、キツネが確認されています（表-1.4）。

近年、外来種のアライグマ、ヌートリアによる農林被害や生態系への影響などが問題となっており、アライグマについては「第 3 期大阪府アライグマ防除実施計画」を平成 28 年 4 月に策定（大阪府）して捕獲及びモニタリングが行なわれ、ヌートリアについては生息状況等の調査が進められています。



【タヌキ】



【ニホンジカ】



【イノシシ】



【ニホンザル】



【ヌートリア】



【アライグマ】

表-1.4 哺乳類確認状況

科名	種名	重要種選定基準	
		環境省レッドリスト (2015)	大阪府レッドリスト (2014)
モグラ科	コウベモグラ		
	モグラ属		
ヒナコウモリ科	アブラコウモリ		
	ヒナコウモリ科		
オナガザル科	ニホンザル	(※1)	
ウサギ科	ノウサギ		
リス科	ニホンリス	(※2)	
ネズミ科	アカネズミ		
	ヒメネズミ		
	カヤネズミ		準絶滅危惧 (NT)
ヌートリア科	ヌートリア		
アライグマ科	アライグマ		
イヌ科	タヌキ		
	キツネ		絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
イタチ科	テン		
	イタチ属		
	アナグマ		準絶滅危惧 (NT)
ジャコウネコ科	ハクビシン		
イノシシ科	イノシシ		
シカ科	ホンジカ		
13科	18種(※3)	0種	3種

※1 ニホンザル: 金華山、北奥羽・北上山系の地域個体群として指定(本流域では貴重種の対象としない)

※2 ニホンリス: 中国地方、九州地方として指定(本流域では貴重種の対象としない)

※3 「モグラ属」、「ヒナコウモリ科」は、それぞれコウベモグラ、アブラコウモリの可能性があるため、種数にはカウントしない。

出典：河川水辺の国勢調査（国土交通省、平成 23 年度）

④両生類・爬虫類

猪名川上流ブロックの両生類・爬虫類は、近隣の一庫ダム周辺で平成23年度に国が実施した河川水辺の国勢調査によると、15科23種の生息が確認されており、水辺周辺に生息する種としては、カスミサンショウウオ、アカハライモリ等の両生類やニホンイシガメ、クサガメ等の爬虫類が確認されています。貴重種としては、トノサマガエル（環境省レッドリスト：準絶滅危惧、大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）、ニホンイシガメ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧、大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）等が確認されています。また、過去には、第2回自然環境保全基礎調査（環境庁、1978～1979）において、河川沿いにオオサンショウウオ（特別天然記念物、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）、周辺にモリアオガエルが確認されています（表-1.5）。

表-1.5 両生類・爬虫類確認状況

分類	科名	種名	重要種選定基準	
			環境省レッドリスト (2015)	大阪府レッドリスト (2014)
両生類	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)
	イモリ科	アカハライモリ	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル		絶滅危惧Ⅱ類(VU)
	アマガエル科	ニホンアマガエル		
	アカガエル科	タゴガエル		
		ヤマアカガエル		絶滅危惧Ⅱ類(VU)
		トノサマガエル	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
		ウシガエル		
		ツチガエル		準絶滅危惧(NT)
	ヌマガエル科	ヌマガエル		
	アオガエル科	モリアオガエル		
	7科	11種	3種	6種
爬虫類	イシガメ科	ニホンイシガメ	準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
		クサガメ		
	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ		
	ヤモリ科	ニホンヤモリ		
	トカゲ科	ニホントカゲ		
	カナヘビ科	ニホンカナヘビ		
	タカチホヘビ科	タカチホヘビ		準絶滅危惧(NT)
	ナミヘビ科	シマヘビ		
		アオダイショウ		
		シロマダラ		準絶滅危惧(NT)
		ヤマカガシ		準絶滅危惧(NT)
	クサリヘビ科	ニホンマムシ		
		8科	12種	1種

出典：河川水辺の国勢調査（国土交通省、平成23年度）



【カスミサンショウウオ】



【アカハライモリ】



【オオサンショウウオ】



【トノサマガエル】



【モリアオガエル】



【ニホンイシガメ】



【クサガメ】

写真出典：地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 HP

⑤昆虫類

猪名川上流ブロックの昆虫類は、近隣の一庫ダム周辺で平成 23 年度に国が実施した河川水辺の国勢調査によると、230 科 1418 種の生息が確認されており、水辺周辺に生息する種としては、アジイトトンボ、クロイトトンボ等のイトトンボ科やハグロトンボ、ミヤマカワトンボ等のカワトンボ科が確認されている他、オオムラサキやヒメアカタテハ等のチョウ類が確認されており、多様な昆虫類が生息しています。



【アジイトトンボ】



【クロイトトンボ】



【ハグロトンボ】



【ミヤマカワトンボ】

写真出典：水辺の昆虫（山と溪谷社、2005）

⑥魚類

猪名川上流ブロックの魚類は、平成 26 年度に大阪府が実施した水辺環境調査によると、一庫・大路次川、田尻川、野間川の 3 河川で、10 科 17 種の生息が確認されています。

一庫・大路次川では、主に平瀬において、オイカワ、カワムツ、カワヨシノボリ等 15 種が確認されており、貴重種としてムギツク（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）やイトモロコ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）が確認されています。田尻川では、主に平瀬において、カワムツ、カワヨシノボリ、カマツカ等 9 種が確認されており、貴重種としてタモロコ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）やミナミメダカ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類、大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）等が確認されています。野間川では、主に淵で、カワムツ、カワヨシノボリ、モツゴ等 6 種が確認されており、貴重種としてタモロコ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）が確認されています（図 - 1.7）（表 - 1.6）。

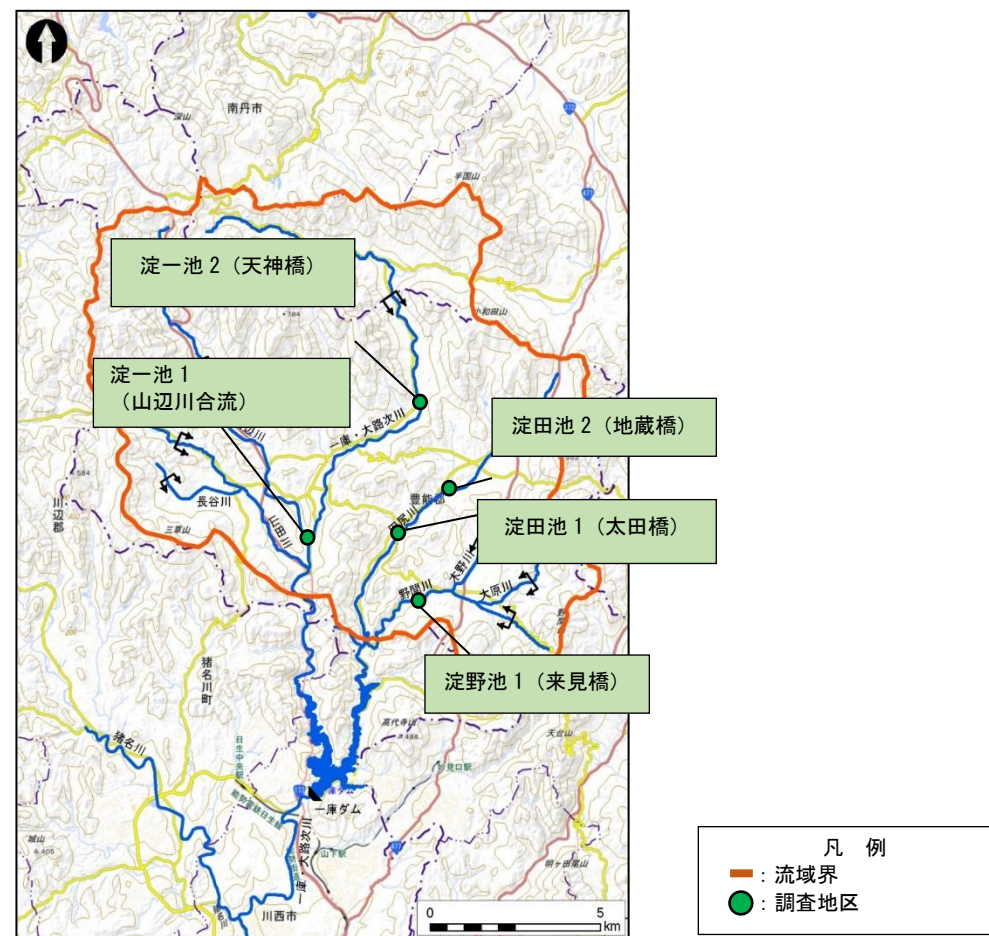
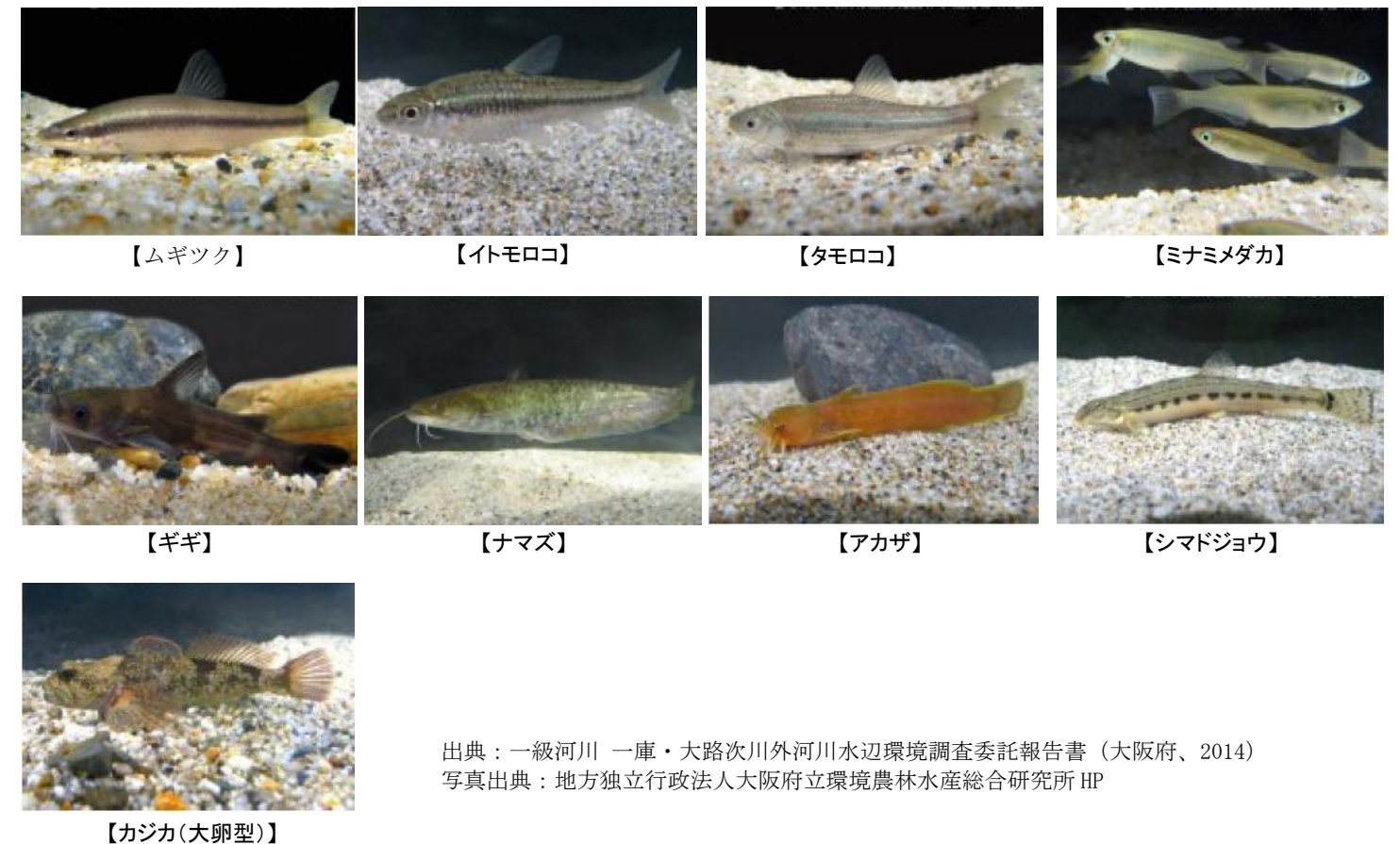


図-1.7 魚類調査地点

表-1.6 魚類確認状況

種名	一庫・大路次川		田尻川		野間川	重要種基準	
	淀一池1	淀一池2	淀田池1	淀田池2	淀池野1	環境省レッドリスト (2015)	大阪府レッドリスト (2014)
オイカワ	○		○				
カワムツ	○	○	○	○	○		
タカハヤ					○		
モツゴ	○				○		
ムギツク	○	○					絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
タモロコ	○		○	○	○		準絶滅危惧 (NT)
カマツカ	○		○	○			
イトモロコ	○						絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
シマドジョウ		○					準絶滅危惧 (NT)
ギギ	○		○	○			準絶滅危惧 (NT)
ナマズ	○		○				準絶滅危惧 (NT)
アカザ		○				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
ミナミメダカ			○	○		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
カジカ (大卵型)		○				準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+VU)
ブルーギル	○						
ドンコ	○	○	○	○	○		
カワヨシノボリ	○	○	○	○	○		
17種	12種	7種	9種	7種	6種	3種	9種
	15種		9種				



出典：一級河川 一庫・大路次川外河川水辺環境調査委託報告書（大阪府、2014）
写真出典：地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 HP

⑦水生生物（底生動物）

猪名川上流ブロックの水生生物（底生動物）は、平成 26 年度に大阪府が実施した水辺環境調査によると、一庫・大路次川、田尻川、野間川の 3 河川で、67 科 137 種の生息が確認されています。

一庫・大路次川では、流速が速く、川底に砂質土が堆積している箇所や植物等が水に浸かっている箇所において多くの種が確認されています。主にカゲロウ目のアカマダラカゲロウ、トビイロコカゲロウ、トビケラ目のウルマーシマトビケラ、ハエ目のアシマダラブユ属等 105 種が確認されており、貴重種としてアオサナエ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）、ナベブタムシ（大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）等が確認されています。田尻川では、流速が速く、川底が石礫の環境において多くの種が確認されています。主にハエ目のアシマダラブユ属、カゲロウ目のアカマダラカゲロウ等 97 種が確認されており、貴重種としてヒラマキガイモドキ（環境省：準絶滅危惧）、タバサナエ（環境省：準絶滅危惧、大阪府レッドリスト：準絶滅危惧）等が確認されています。野間川では、河川横断工作物による湛水域において種数が多く確認されています。主にハエ目のアシマダラブユ属やカゲロウ目のアカマダラカゲロウ等 65 種が確認されており、貴重種は確認されていません（図 - 1.8）（表 - 1.7）（表 - 1.8（1）（2））。

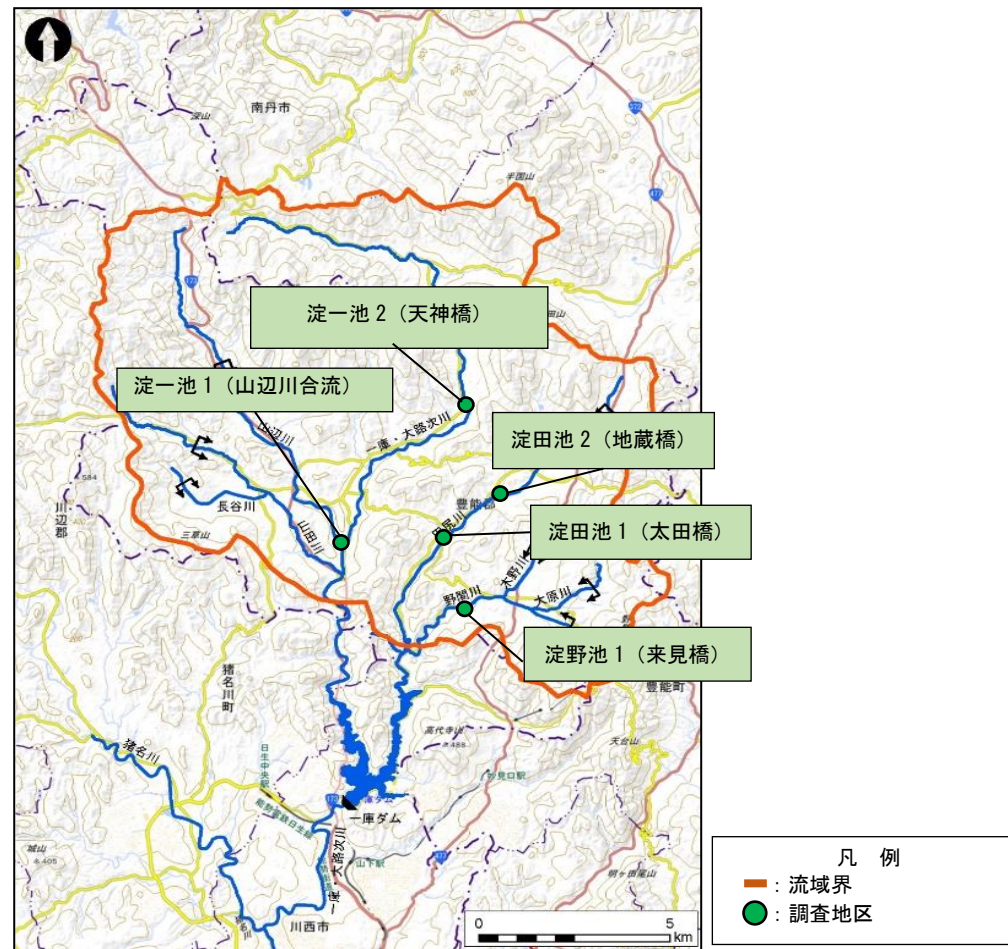


図-1.8 底生動物調査地点

表-1.7 底生動物重要種確認状況

種名	一庫・大路次川		田尻川		野間川	重要種基準	
	淀一池1	淀一池2	淀田池1	淀田池2	淀池野1	環境省レッドリスト (2015)	大阪府レッドリスト (2014)
ヒラマキミズマイマイ			○			情報不足 (DD)	
ヒラマキガイモドキ				○		準絶滅危惧 (NT)	
アオサナエ	○		○				準絶滅危惧 (NT)
タバサナエ			○			準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)
ミズカマキリ		○	○	○			準絶滅危惧 (NT)
ナベブタムシ	○	○					準絶滅危惧 (NT)
キタガミトビケラ		○					準絶滅危惧 (NT)
ヘイケボタル	○		○	○			準絶滅危惧 (NT)
8種	3種	3種	5種	3種	0種	3種	6種
	5種		6種				



【アオサナエ】 【ナベブタムシ】 【ヒラマキミズマイマイ】 【タバサナエ】



【ミズカマキリ】 【ヒラマキガイモドキ】 【キタガミトビケラ】 【ヘイケボタル】

出典：一級河川 一庫・大路次川外河川水辺環境調査委託報告書（大阪府、2014）
 写真出典：アオサナエ、ナベブタムシ、ミズカマキリ、ヘイケボタル（水辺の昆虫（山と溪谷社、2005）
 ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ（日本産淡水貝類図鑑（株式会社ピーシーズ 2004）
 キタガミトビケラ（原色川虫図鑑（全国農村教育協会 2000）
 タバサナエ（京都府 HP）

表-1.8(1) 底生動物確認状況

綱名	目名	科名	種名	一庫・大路次川					重要種基準			
				淀一池1	淀一池2	淀田池1	淀田池2	淀池野1	環境省レッドリスト (2015)	大阪府レッドリスト (2014)		
渦虫綱	三岐綱目	サンクアタマウズムシ科	ナミウズムシ	○	○	○	○					
	原形紐舌目	タニシ科	ヒメタニシ			○	○					
	盤足目	カウニナ科	カウニナ		○	○	○					
基眼目	モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ			○	○	○					
	サカマキガイ科	サカマキガイ	○	○								
	ヒラマキガイ科	ヒラマキガイマイマイ			○			情報不足 (DD)				
		ヒラマキガイモドキ			○			準絶滅危惧 (NT)				
二枚貝綱	イシガイ目	イシガイ科	ドブガイ			○	○					
	マルダシガイ目	シジミ科	シジミ属			○	○					
ミズシメ綱	ナガミミズ目	ナガミミズ科	ナガミミズ科			○	○					
	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ科	○	○	○	○					
	イトミズ目	ミズミズ科	ミズミズ科		○	○	○					
		イトミズ科	イトミズ科		○	○	○	○				
		イトミズ科	イトミズ科		○	○	○	○				
		イトミズ科	イトミズ科		○	○	○	○				
		イトミズ科	イトミズ科		○	○	○	○				
		イトミズ科	イトミズ科		○	○	○	○				
		イトミズ科	イトミズ科		○	○	○	○				
		イトミズ科	イトミズ科		○	○	○	○				
ヒル綱	吻蛭目	グロシフォニ科	ヌマビル			○	○					
			イボビル	○								
			グロシフォニ科				○					
	無吻蛭目	イシビル科	ナミイシビル		○	○	○					
			イシビル科		○	○	○					
	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ								
		ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ	○	○	○	○				
		エビ目	ヌマエビ科	カワリヌマエビ属	○	○	○	○				
			テナガエビ科	スジエビ			○	○				
			アメリカザリガニ科	アメリカザリガニ	○		○	○				
		サワガニ科	サワガニ			○	○					
昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	ヒメフタオカゲロウ属	○	○	○	○					
			コカゲロウ科	ヨシコカゲロウ	○	○	○	○				
				フタバコカゲロウ	○	○	○	○				
				フタモンコカゲロウ			○	○				
				シロハラコカゲロウ	○	○	○	○				
				フタバカゲロウ属			○	○				
				ウスイロフヒゲコカゲロウ	○	○	○	○				
				トビロコカゲロウ	○		○	○				
				Dコカゲロウ			○	○				
				ヒラタカゲロウ科	オニヒメタニガワカゲロウ	○	○	○	○			
					シロタニガワカゲロウ	○	○	○	○			
					ウエノヒラタカゲロウ	○	○	○	○			
					ナミヒラタカゲロウ	○	○	○	○			
					エルモンヒラタカゲロウ	○		○	○			
					ヒラタカゲロウ属			○	○			
					キハダヒラタカゲロウ属			○	○			
					ヒメヒラタカゲロウ属			○	○			
				チラカゲロウ科	チラカゲロウ	○	○	○	○			
				トビロカゲロウ科	トビロカゲロウ科	○						
				モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ			○	○			
					トウヨウモンカゲロウ	○		○	○			
					モンカゲロウ	○	○	○	○			
				カワカゲロウ科	キイロカワカゲロウ	○	○	○	○			
				マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ	○	○	○	○			
					トウヨウマダラカゲロウ属	○	○	○	○			
					オオマダラカゲロウ	○	○	○	○			
					シリナガマダラカゲロウ	○	○	○	○			
					エラブマダラカゲロウ	○		○	○			
					アカマダラカゲロウ	○	○	○	○			
				ヒメシロカゲロウ科	ヒメシロカゲロウ属		○					
			トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	イトトンボ科	アオモンイトトンボ属	○					
						アオハダイトトンボ属			○			
						ニホシカイトトンボ			○			
						サナエイトトンボ	ヤマサナエ			○		
							ダビドサナエ	○	○	○	○	
							ダビドサナエ属	○	○	○		
							オナガサナエ	○			○	
							アオサナエ	○		○		準絶滅危惧 (NT)
							コオニヤシマ		○		○	
							オジロサナエ			○		
							タベサナエ			○		準絶滅危惧 (NT)
							サナエイトトンボ			○		準絶滅危惧 (NT)
						エゾイトトンボ科	コヤマイトトンボ		○	○		
						イトトンボ科	シオカイトトンボ		○	○	○	
					カワゲラ目(セキ翅目)	クロカワゲラ科	クロカワゲラ科	クロカワゲラ科	○	○		
	オナシカワゲラ科			○			○					
	オナシカワゲラ属			○			○					
	オナシカワゲラ属			○			○	○				
	カワゲラ科	カミラカワゲラ属		○								
	アミメカワゲラ科	ヒメカワゲラ属	○	○			○	○				
カメシ目(半翅目)	タイコウチ科	タイコウチ科	ミズカマキリ			○	○		準絶滅危惧 (NT)			
			ナベバタムシ科	ナベバタムシ	○	○			準絶滅危惧 (NT)			
			マツモムシ科	マツモムシ				○				
トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	シマトビケラ科	コガシマトビケラ	○	○	○	○					
			コガシマトビケラ属			○	○	○				
			オオヤマシマトビケラ	○	○	○	○					
			ウルマシマトビケラ	○	○	○	○					
			オオシマトビケラ	○		○	○					
		エチコシマトビケラ	○									

表-1.8(2) 底生動物確認状況

綱名	目名	科名	種名	一庫・大路次川					重要種基準	
				淀一池1	淀一池2	淀田池1	淀田池2	淀池野1	環境省レッドリスト (2015)	大阪府レッドリスト (2014)
		クダビケラ科	クダビケラ属	○						
		ヒゲナガカワトビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	○	○	○	○	○		
		ヤマトビケラ科	ヤマトビケラ属	○	○	○	○	○		
			ヤマトビケラ属	○	○	○	○	○		
			ヤマトビケラ科		○					
		カワリナガレトビケラ科	ツメナガレトビケラ		○					
		ヒメトビケラ科	ヒメトビケラ属	○				○		
		ナガレトビケラ科	ヒロアタマナガレトビケラ		○					
			キノナガレトビケラ		○					
			ムナグロナガレトビケラ	○	○	○	○	○		
			トランスウイラナガレトビケラ	○	○	○	○	○		
			ヤマナカナガレトビケラ	○				○		
			ナガレトビケラ属	○	○	○	○	○		
		コエグリトビケラ科	コエグリトビケラ属	○	○	○	○	○		
		ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ	○	○	○	○	○		
		カクツツトビケラ科	カクツツトビケラ属	○	○	○	○	○		
		ヒゲナガトビケラ科	タテヒゲナガトビケラ属	○	○	○	○	○		
			アオヒゲナガトビケラ属	○	○	○	○	○		
		エグリトビケラ科	ホタルトビケラ属					○		
		キタガトビケラ科	キタガトビケラ		○				準絶滅危惧 (NT)	
		ホソバトビケラ科	ホソバトビケラ			○				
		マルバネトビケラ科	マルバネトビケラ		○			○		
		ケトビケラ科	グマガトビケラ属	○	○	○	○	○		
ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	ガガンボ科	ウスノガガンボ属	○	○	○	○	○		
			Diceranota属	○	○	○	○	○		
			ヒゲナガガガンボ属	○		○				
			Ormosia属		○					
			ガガンボ科	ガガンボ属	○	○	○	○	○	
			ヌカカ科	ヌカカ科		○				
			ユスリカ科	ユスリカ属(ヒゲユスリカ族)		○			○	
				サユスリカ属(カクレサユスリカ グループ)	○	○	○	○	○	
				エリユスリカ属	○	○	○	○	○	
				モンユスリカ属	○	○	○	○	○	
				ケバカユスリカ属				○	○	
				ハダカユスリカ属				○	○	
				トゲアシユスリカ属					○	
				ユスリカ属	○			○		
				カマガタユスリカ属	○				○	
		スジカマガタユスリカ属			○					
		ボクシヌマユスリカ属	○		○					
		ナガスユスリカ属	○				○			
		ツヤムユスリカ属	○	○			○			
		エリユスリカ属	○	○	○	○	○			
		オオユスリカ属			○					
		カワリユスリカ属	○							
		ハモンユスリカ属		○		○	○			
		ウスギヌマユスリカ属	○	○		○	○			
		ナガレユスリカ属	○				○			
		アシマダユスリカ属	○		○		○			
		ヒゲユスリカ属	○				○			
		ユスリカ科	○	○	○	○	○			
	ホソカ科	ホソカ科			○					
	ブユ科	アシマダラブユ属	○	○	○	○	○			
		ブユ科	○		○	○	○			
	アブ科	アブ科	○	○						
コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ属	○	○	○	○	○		
			イブシアシナガドロムシ	○		○				
			アワツヤドロムシ	○		○	○	○		
			ヒメツヤドロムシ	○	○	○				
			ヒラタドロムシ科	マルヒラタドロムシ属	○	○	○	○	○	
		ヒラタドロムシ	○		○					
		マダラチビヒラタドロムシ	○							
	ホタル科	ゲンジボタル	○	○	○	○	○			
		ヘイケボタル	○		○	○		準絶滅危惧 (NT)		

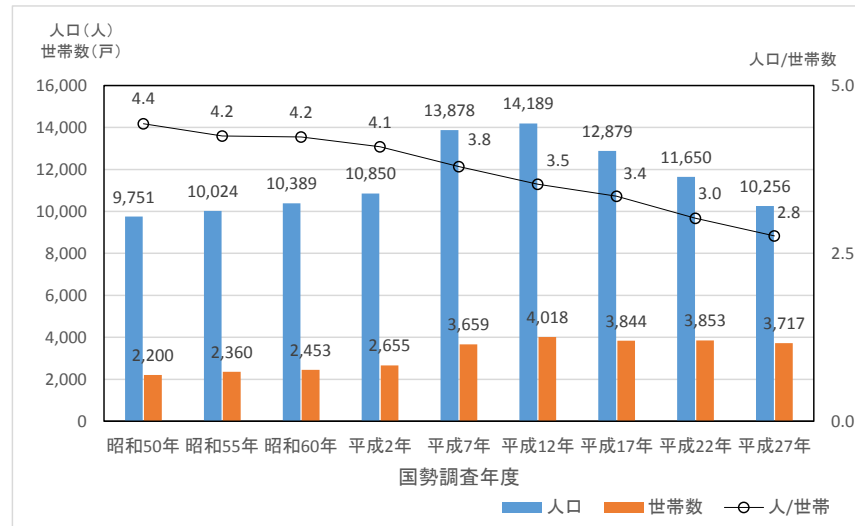
出典：一級河川 一庫・大路次川外河川水辺環境調査委託報告書（大阪府、2014）

(2) 社会環境特性

1) 人口

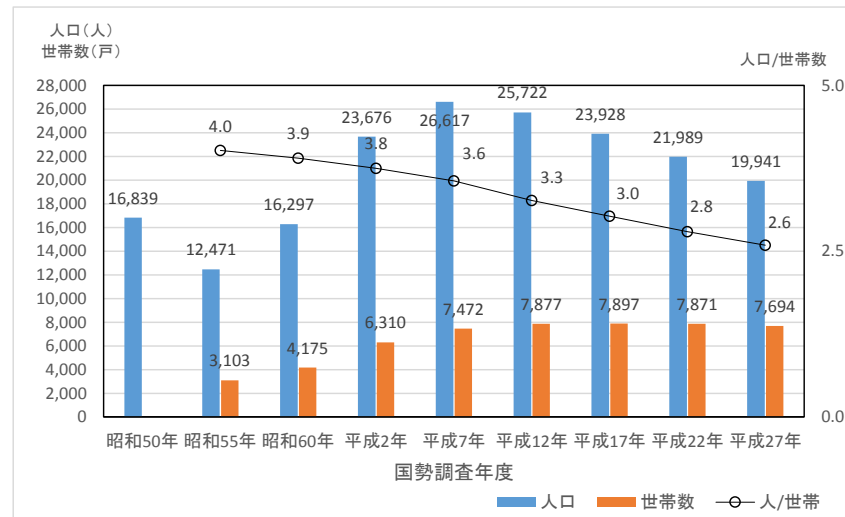
猪名川上流ブロック内の各町の人口(平成27年国勢調査)は、能勢町が10,256人で豊能町19,941人です。対象流域のほとんどを占める能勢町の人口は、昭和60年頃までは一万人程度で推移してきましたが、それ以降は増加傾向を続け、平成12年をピークに減少傾向となっています(図-1.9)。

豊能町の人口は、昭和30年代から増加傾向を続けてきましたが、平成7年をピークとしてその後は減少傾向となっています(図-1.10)。世帯数(平成27年国勢調査)は、能勢町が3,717世帯で近年、減少傾向となっています。豊能町は7,694世帯で、人口は減少傾向にあるものの、世帯数は横ばいとなっています。



※) 流域内ではなく、町全体の値である。

図-1.9 能勢町の人口の推移



※) 流域内ではなく、町全体の値である。

図-1.10 豊野町の人口の推移

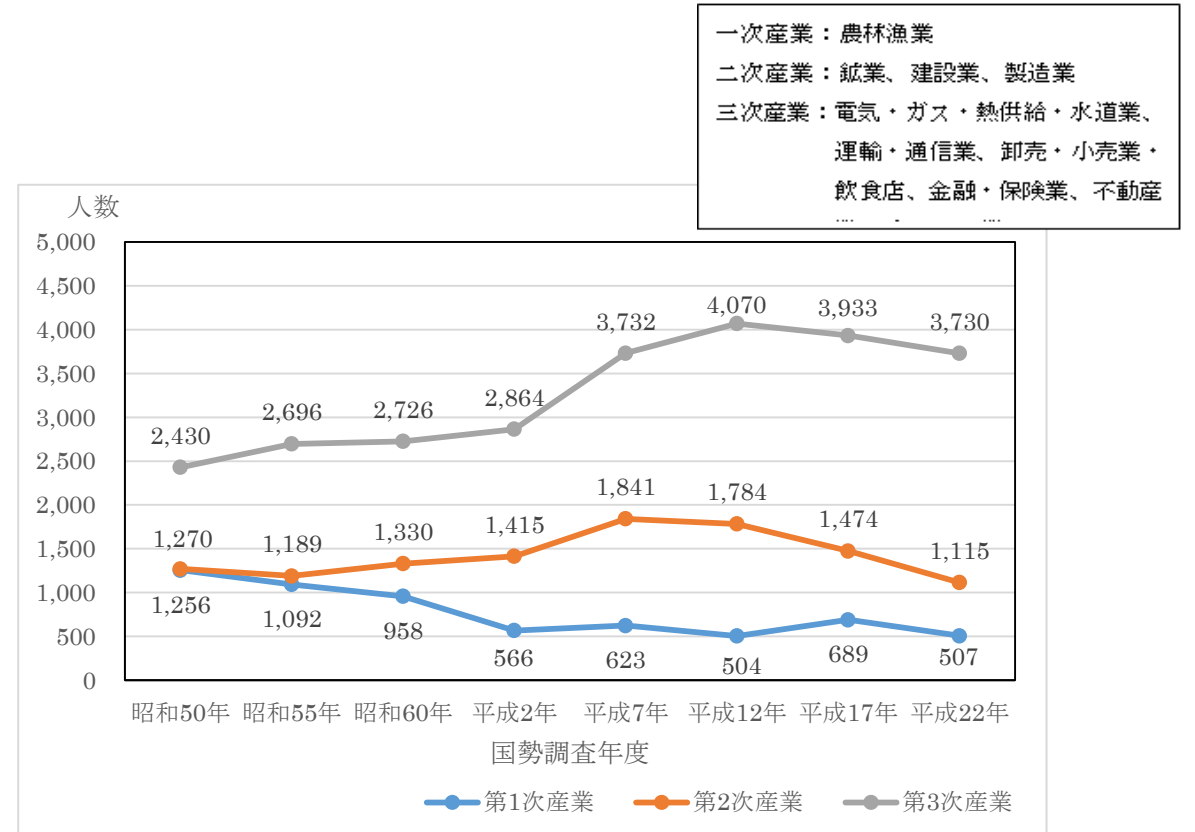
出典：国勢調査

2) 産業

猪名川上流ブロック内の産業の特徴としては、農林業を中心にそれらの加工業が盛んです。産業について従業者数で見ると、卸売業・小売業などの第三次産業が約70%を占め、第二次産業は約20%、第一次産業は約10%という割合となっています(平成27年度大阪府統計年鑑)(図-1.11)。

かつて多くの従事者がいた第1次産業については主な産業の事業所登録が少なく、従事者も少ないものとなっており、近年、経営耕地面積、農家戸数、農家人口ともに減少傾向にあります。

特産品は、能勢米のほか、スイートコーン「能勢太陽の粒」、「能勢黒えだまめ」、さつまいも「べにはるか」の3品種が能勢町観光物産センターブランド野菜として栽培されています。



出典：平成27年度大阪府統計年鑑に加筆、平成27年度の数値は平成29年4月公開予定

図-1.11 産業別就労者数の推移



スイートコーン「能勢太陽の粒」 出典：能勢町観光物産センター

3) 土地利用

猪名川上流ブロックの土地利用は、山林が約 57%、農地が 30%を占め、宅地は 7%となっています。主な集落地・市街地は、森上・大里・田尻・野間中・地黄・倉垣、宅地開発が行われた宿野・平通地区などです。大部分が山林で占められ、比較的傾斜の緩い山麓斜面は果樹園となっています。谷筋の各河川沿いの平地は水田として利用されています（表 - 1.9）（図 - 1.12）（図 - 1.13）。

また、集落も河川に沿って点在しており、これを結ぶ各道路も河川と平行して谷筋を通っています。

なお、市街化区域が、一庫・大路次川流域の国道 173 号から府道宿野下田線に沿って指定されており、市街化区域の面積は、全体の約 1%となっています。また、田尻川、木野川の流域界にはゴルフ場もみられます。

表-1.9 土地利用の経年変化

年度	項目	田	畑・果樹園	宅地	池沼	山林	原野	雑種他	合計
平成2年度	面積(ha)	809.2	66.8	139.6	0.1	1647.5	82.2	43.5	2788.9
	割合	29.0%	2.4%	5.0%	0.0%	59.1%	2.9%	1.6%	100.0%
平成27年度	面積(ha)	805.3	56.7	203.2	0.0	1647.6	71.7	126.0	2910.4
	割合	27.7%	1.9%	7.0%	0.0%	56.6%	2.5%	4.3%	100.0%

※能勢町保管の固定資産課税台帳に登録されている土地

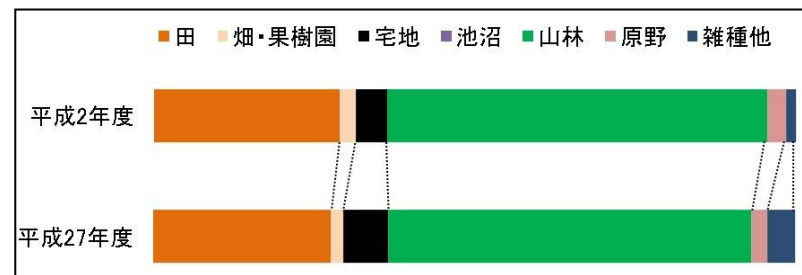


図-1.12 土地利用割合の経年変化

出典：大阪府統計年鑑

昭和 51 年土地利用状況

平成 26 年土地利用状況

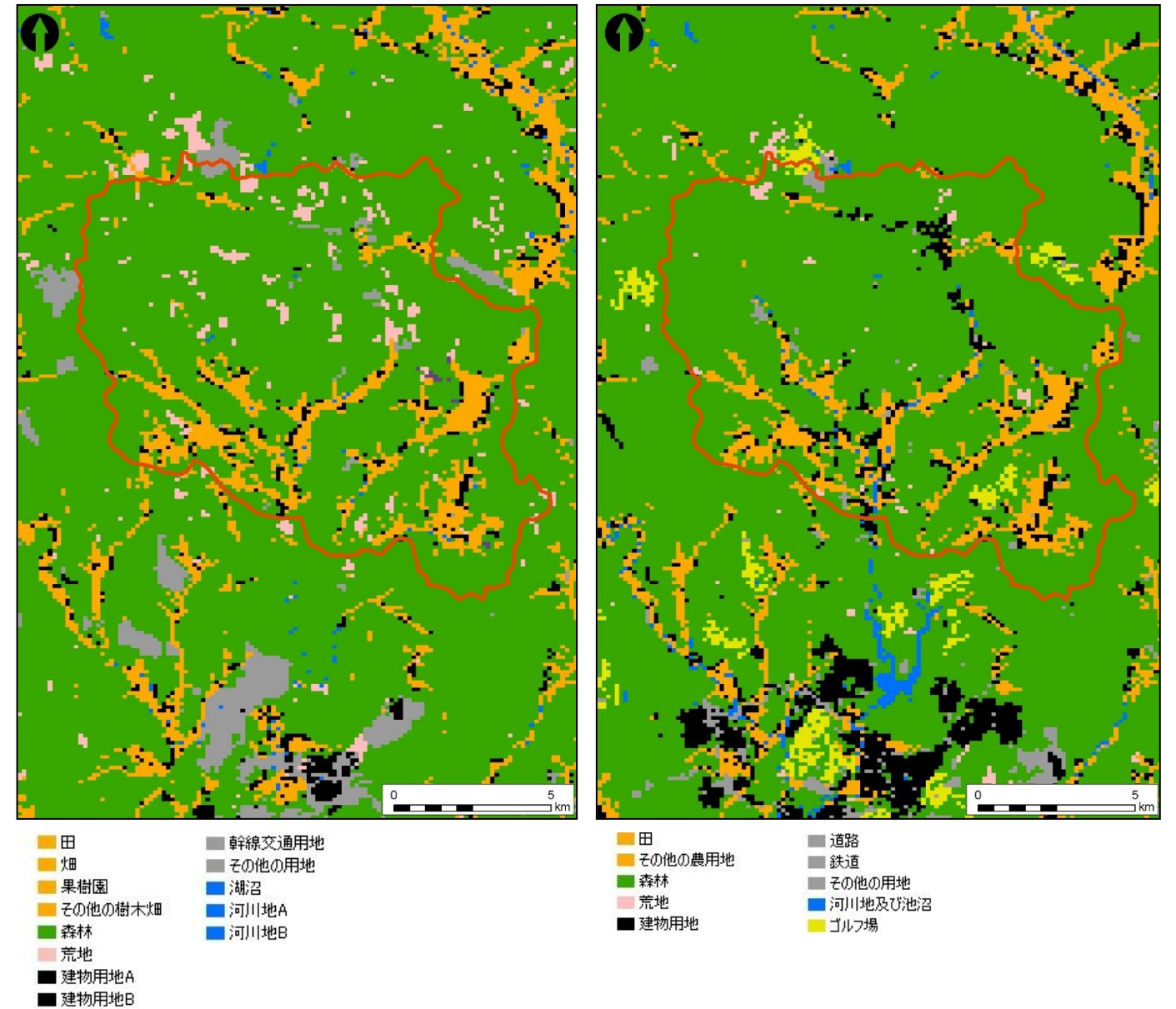


図-1.13 土地利用状況図

出典：国土数値情報（国土地理院）より作成

4) 歴史・文化・観光

猪名川上流ブロック内には、古来より丹波方面から池田・大阪方面を結ぶ能勢街道があります。この街道は、北摂地方と大阪を結ぶ経済的動脈として重要性を持つとともに、近世中期以降は「能勢の妙見さん」として広く信仰を集めた妙見山への参詣路としてにぎわっていました。この能勢街道は、時代により経路は異なっていたようですが、明治中期には現在の大阪市より川西市山下を経て野間に至り、山間盆地の地黄から倉垣、吉野を経て京都府亀岡市に入り山陰道に接続していたようです。

本流域には、国指定の重要文化財として今養寺木造大日如来坐像があるほか、府指定や町指定の文化財も多数存在しています。また、大規模な開発がされてこなかったことから、国の天然記念物に指定されている「野間の大けやき」をはじめ、妙見山のブナ林や倉垣天満宮のいちよう等の府指定の天然記念物も多数存在しています（表 - 1.10）（図 - 1.14）。

また、江戸後期の文化年間（1804～1817年）に能勢から大阪にでた村人が、流行の義太夫節を聞き覚えて帰り、村で語るところからやがて、稽古屋で習い、酒席で披露するなどといったところから普及してきたと云われる「能勢の浄瑠璃」は、平成11年に国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に指定され、能勢町でも浄瑠璃シアターを建設しその保存に努めています。

表-1.10 文化財一覧表

機関	番号	種類	種別	名称	所在地
国	1	重要文化財	彫刻	今養寺 木造 大日如来坐像	能勢町
	2	特別天然記念物	植物	野間の大榎	能勢町
	3	登録有形文化財	建築物	吉野薬師堂	能勢町
府	-	無形民俗文化財記録選択	記録選択	能勢の浄瑠璃	能勢町
	1	有形文化財	工作物	能勢東郷城山 石造 九重塔	能勢町
	2	有形文化財	工作物	蓮華寺 石造 五輪塔	能勢町
	3	有形文化財	建築物	清普寺 本堂 庫裏 表門 鐘楼 附:能勢家墓地内 五輪等 宝塔 笠塔婆 板碑	能勢町
	4	有形文化財	彫刻	今養寺 木造 千手観音立像	能勢町
	5	有形文化財	彫刻	今養寺 木造 釈迦如来坐像	能勢町
	6	有形文化財	彫刻	涌泉寺 木造 多宝如来坐像	能勢町
	7	有形文化財	彫刻	安禪寺 木造 十一面観音立像	能勢町
	8	有形文化財	彫刻	玉泉寺 木造 不動明王坐像	能勢町
	9	有形文化財	工芸品	真如寺 銅鐘	能勢町
	10	有形文化財	古文書	能勢家文書	能勢町
	11	記念物	史跡	月峯寺跡	能勢町
	12	記念物	名勝	長杉寺 庭園	能勢町
	13	記念物	天然記念物	倉垣天満宮のいちよう	能勢町
	14	記念物	天然記念物	八坂神社のしい	能勢町
	15	記念物	天然記念物	天王のあかがし 2本	能勢町
	16	記念物	天然記念物	妙見山のぶな林	能勢町
17	文化財環境保全地区		法常寺文化財環境保全地区	亀岡市	
-	無形民俗文化財	無形民俗	能勢の浄瑠璃	能勢町	
-	無形民俗記念物	記録選択	能勢町浄る	能勢町	
-	無形民俗記念物	記録選択	八坂神社の御田植え祭(おんだ)	能勢町	
町	1	有形文化財	工作物	野間中地藏一尊種子自然板碑	能勢町
	2	有形文化財	工作物	慈眼寺 宝篋印塔	能勢町
	3	有形文化財	工作物	長谷サイノカミ峠寛永11年の道標	能勢町
	4	有形文化財	彫刻	玉泉寺 木造 薬師如来坐像	能勢町
	5	有形文化財	彫刻	桂林寺 木造 釈迦如来坐像	能勢町
	6	有形文化財	彫刻	涌泉寺木造大威徳明王坐像	能勢町
	7	有形文化財	考古	野間中古墳群出土の銅鈴	能勢町
	8	有形文化財	考古	吉野2号墳出土の鉄刀	能勢町
	-	無形民俗文化財	無形民俗	八坂神社の御田植え祭り(おんだ)	能勢町
	-	無形民俗文化財	無形民俗	浄るり音頭	能勢町
	-	無形民俗文化財	無形民俗	山辺神社の獅子舞	能勢町
-	無形民俗文化財	無形民俗	野間出野の獅子舞	能勢町	

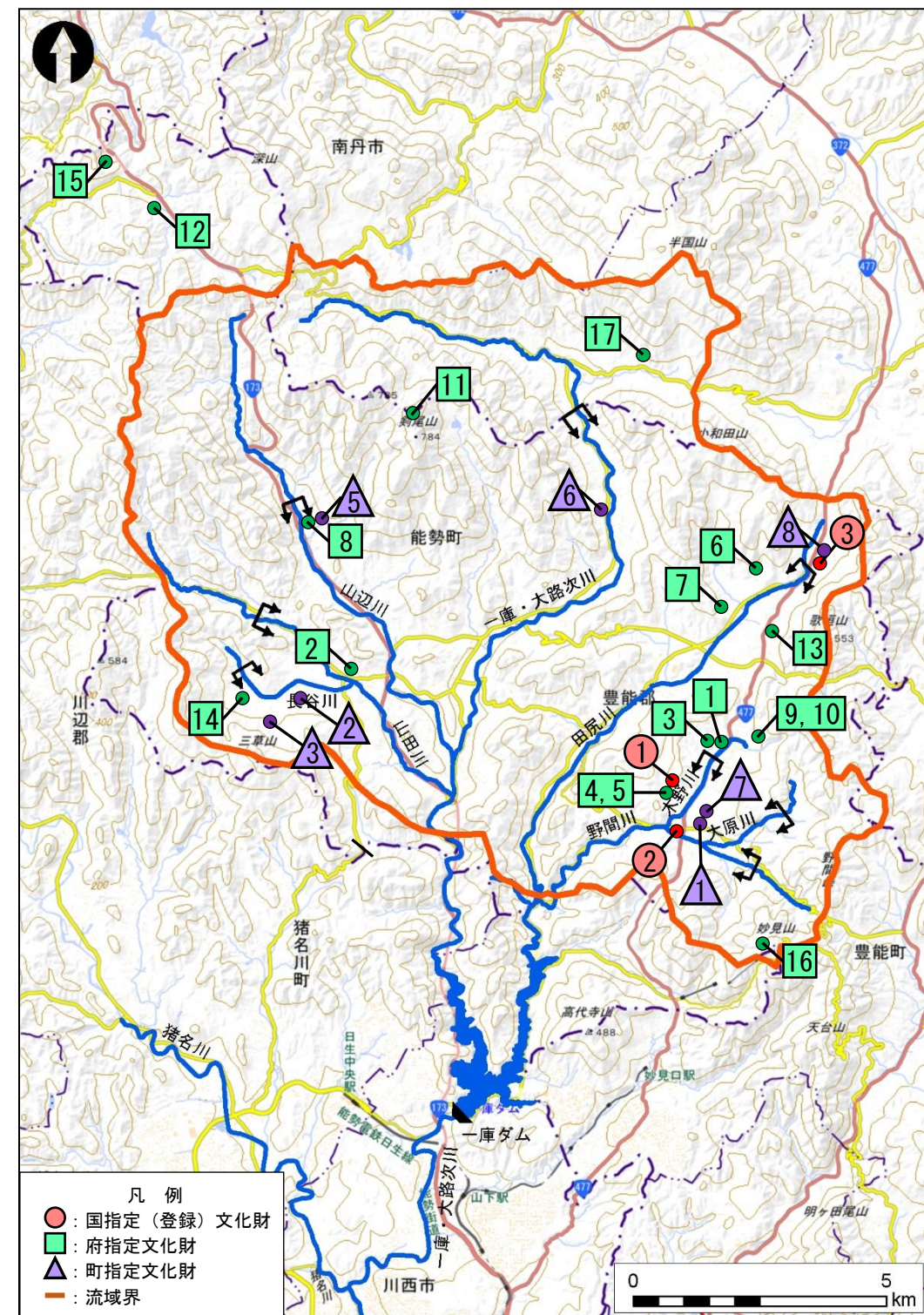


図-1.14 文化財位置図

【国指定文化財】

1. 今養寺 木造 大日如来坐像（国指定重要文化財）

今養寺は承保三年（1076）に創建されたとされ、草葺きの本堂と釈迦堂がひっそりとたたずむ古刹です。大日如来坐像は経深により平安時代後期に製作されました。「経深」の墨書名があり、涌泉寺の木造多宝如来坐像と同銘です。



出典：能勢町 HP

2. 野間の大榲（国特別天然記念物）

野間神社の旧蟻無神社境内にある、ご神木として保護されてきた能勢町の樹木のシンボルです。樹齢は1000年以上と推定されています。樹高は27.37m、幹周りは13.01m、最大枝張は39.3m×36.2mの巨樹です。



出典：能勢町観光協会 HP「のせ NOTE」

3. 吉野薬師堂（国登録有形文化財）

1555年に建てられた寄棟造の平屋です。茅葺（鉄板仮葺）で、側柱は大面取り角柱、仏壇前面両脇は太い円柱とし、内部は前方梁間2間を広間、奥は中央を仏壇、両脇を小間に仕切っています。集落のほぼ中央にあり、中世の部材を残すとともに、集落の歴史景観上欠くことのできない建物です。



出典：能勢町観光協会 HP「のせ NOTE」

4. 能勢の浄瑠璃（国指定選択無形民俗文化財）

江戸時代中期の文化年間から伝わり、太棹三味線と太夫の語りによって物語が進行する「素浄瑠璃」といわれる座敷芸です。世襲ではなく、「おやじ」となる太夫が弟子の中から後継者を選出する制度が特色です。

※大阪府指定無形民俗文化財としても指定されています。



出典：能勢町 HP

【府指定文化財】

1. 能勢東郷城山 石造 九重塔（府指定有形文化財）

清普寺の前方、城山への登山口に建つ石造九重塔です。花崗岩を素材とし、弘安十一年（1288）に造立されました。一部が欠損しているものの、欠失下部分も合わせると総高309.4cmになります。製作手法の珍しさから、非常に歴史的価値の高いものと言えます。



出典：日蓮宗 HP

2. 蓮華寺 石造 五輪塔（府指定有形文化財）

江戸時代の初めに、旗本能勢頼次公によって浄土宗であった光明寺が日蓮宗に改宗され、蓮華寺として開創されました。石造五輪塔は鎌倉時代後期中頃の造立で、高さ216.4cmの七尺塔で大阪府下屈指の名塔です。

3. 清普寺（本堂・庫裏・表門・鐘楼）附；能勢家墓地内五輪等、宝塔、笠塔婆、板碑（府指定有形文化財）

慶長六年（1601）に、能勢氏中興の祖能勢頼次公が、亡き父頼幸の菩提を弔うため開建しました。境内には頼次公一族や、領主代々の五輪塔、宝塔、笠塔婆、板碑が並んでいます。日蓮宗方丈型の本堂としては府内で最も古い本堂をはじめ、能勢家墓所にならぶ巨大な墓石群等、近世寺院伽藍の趣を残す貴重な遺構です。



出典：能勢町観光協会 HP「のせ NOTE」

4. 今養寺 木造 千手観音立像（府指定有形文化財）

平安時代初期の作で、像高は173.5cmです。



出典：能勢町 HP

5. 今養寺 木造 釈迦如来坐像（府指定有形文化財）

今養寺の車道の本尊で、像高213.5cmと堂内は目をみはる高さです。鎌倉時代初期の府下でも数少ない大仏です。



出典：能勢町 HP

6. 涌泉寺 木造 多宝如来坐像（府指定有形文化財）

涌泉寺は弘仁十一年（802）に弘法大師空海により、釈迦が嶽の山頂に創建され、江戸時代の寛永六年（1629）に日蓮宗に改宗されました。木造多宝如来坐像は檜材の寄木造で12世紀の製作での温雅な作品です



出典：涌泉寺 HP

7. 安穩寺 木造 十一面観音立像（府指定有形文化財）

平安時代後期、天台宗の名僧源信坊恵心が霊場として開創しました。その後真言宗寺院となったが、慶長六年（1601）能勢頼次公の外護のもと法華改宗となりました。木造十一面観音菩薩立像は「東向観音」として人々の信仰を集めています。このような4本の腕を持つ木造十一面観音立像は日本に7体しか確認されておらず、非常に貴重な仏像であると言われています



出典：能勢町 HP

8. 玉泉寺 木造 不動明王坐像（府指定有形文化財）

玉泉寺は、かつては剣尾山の山上にあり、槻峯寺玉泉坊といい、隆盛をきわめていました。しかし、戦国時代の災いに遭い、麓の村里に移って堂舎を建設、以来真言宗玉泉寺として今日に至っています。木造不動明王坐像仏像の出来は素晴らしく、独特の様式化された憤怒の表情、内に充満した気力、加えて「不動」の名にふさわしく安定感に溢れており、衣紋表現は異色の名で知られる湛海作品の中でも抜群のものであると思われます。



出典：能勢町 HP

9. 真如寺 銅鐘（府指定有形文化財）

能勢氏中興の祖、能勢頼次公は、関ヶ原の戦いの後、旧領地に復すると、日乾上人（後、身延山21世）を招いての開山とし自ら開基となりました。檀信徒による身延山参詣の困難を憂いて、宗祖日蓮上人の御真骨を分置し「関西身延」として宗祖棲神の霊山としました。銅鐘は元応元年（1319）に鑄成されたが、元は山城国勝龍寺のもので、この鐘には鑄成の由来とともに、梵字真言陀羅尼28種が刻まれ、それぞれの漢字で示されています。明治二十三年（1890）に真如寺の所有となりました。



出典：能勢町観光協会 HP「のせ NOTE」

10. 能勢家文書（府指定有形文化財）

能勢氏が鎌倉時代から戦国時代にかけて幕府から受け取った文書2巻43通と系図1巻からなる武家文書群です。文書からは、能勢氏が鎌倉時代以来、一貫して武家方であり、時の将軍家より文書を直接賜るほどの格の高い家であったことをうかがい知ることができます。

11. 月峯寺跡（府指定史跡）

北摂連山に一際そそり立つ剣尾山の山頂近くに月峯寺の遺構が残っています。推古朝、日羅上人が難波津の海人の訴えにより山を登り、四圍にたなびく瑞雲紫煙に触れ、千手観音を刻し開創したと伝えられています。

12. 長杉寺 庭園（府指定名勝）

臨済宗妙心寺派に属する長杉寺の枯山水形式の庭園です。広さは55平方メートルで長杉寺の書院西側に面しています。山裾に多数の石組みを段状に配置し、中央には枯滝が組まれています。石の間にバランスよく植えられたサツキやヤブコウジなどの植物が庭石組みによく調和し、趣をそえています。庭が造られたのは江戸時代初期と考えられ、小さいながらも立体的変化に富んだ貴重な庭園です。



出典：大阪府 HP

13. 倉垣天満宮のいちょう（府指定天然記念物）

倉垣天満宮は、菅原道真を祭神とし、1054年に北野天神の分霊を歌垣山の頂上に勧請し祀ったのが起源とされ、1584年に現在の場所に移転されました。移転当時すでにこのイチョウは「翠枝千歳なりき」と言われ、昔から氏子、郷民の崇拝する御神木であったといわれています。樹形からすると、2本の木が合体したものと思われ、樹勢は旺盛で、どっしりとした貫禄のある姿をみせています。



出典：大阪府 HP

14. 八坂神社のしい（府指定天然記念物）

八坂神社は素盞鳴尊を主神とし、疫病や農作物を害虫から守る神として崇められています。この八坂神社の鳥居下の右側の道を200m登ると斜面地に太い幹をしたシイ（樹高15m、幹周り5m）があります。若いヒノキの人工林に囲まれたシイは、幹に空洞ができ、やや衰えがみえるものの、その大きな木は元気に存在感を示しています。



出典：大阪府 HP

15. 天王のアカガシ（府指定天然記念物）

天王のアカガシのある所は稲荷社があり、辺りは神域の樹木として崇められ、大切に保存されてきました。稲荷社の手前の山道を200mほど進むと、杉・桧の美林があり、少し暗い中に2本のアカガシが立っています。アカガシの手前には、祠があり神聖な空気が漂っています。アカガシは暖帯に自生する常緑高木であるが、カシの中でも耐寒性が強いので天王の高地でも生育して、巨木となったものと思われま



出典：大阪府 HP

16. 妙見山のぶな林（府指定天然記念物）

妙見山の山頂（標高 660m）から南西の斜面約 9.5ha にアカガシに混じりブナが生育し、幹周り 2m 以上の樹が約 100 本もあり、中には幹周りが 4m を超える樹もあります。林内のブナは若葉を出して元気な姿を見せています。



出典：大阪府 HP

17. 法常寺文化財環境保全地区

法常寺は一絲文守を開山とする臨済宗妙心寺派の寺院で、境内は半国山の南麓斜面に位置しています。境内地にはモミの高木が点在し、樹木幹に着生するラン属植物もみられ、参道の両側にはモミジやカエデも多く秋の紅葉時期には印象的な光景が広がります。法常寺とその周辺約 1.4ha は、閑寂な山中の木々に囲まれた環境の中にあり、名称庭園をはじめ、開山遺髪塔や桐江庵跡を取り囲む境内地の諸要素を複合して優れた寺院環境を保っています



出典：京都府 HP

18. 能勢町浄るり（府指定無形民俗文化財）

江戸時代中期の文化年間から伝わり、太棹三味線と太夫の語りによって物語が進行する“素浄瑠璃”といわれる座敷芸です。

※先述の「能勢の浄瑠璃」と同様です。



出典：能勢町 HP

19. 八坂神社の御田植え祭(おんだ)

長谷地区の八坂神社では、毎年5月8日に、「ようかび」という「今年も達者で豊作でありますように」と祈願する「御田祭り」が行われます。

※能勢町指定の無形民俗文化財にも指定されています。

【町指定文化財】

1. 野間中地藏一尊種子自然板碑（町指定有形文化財）

南北朝時代初期の暦応四年（1341）のもので、作者は伊野行恒かその直系の石大工といわれています。「右志者為法界衆生、平等利益也、暦応四年（1341）歳次辛巳二月廿四日、願主 僧祐尊」という銘文が彫られています。

2. 慈眼寺 宝篋印塔（町指定有形文化財）

慈眼寺は兵火により焼失した三草山清山寺の一坊自雲庵であったが、延徳二年（1490）に芳寿和尚が再興した寺です。境内観音堂の傍らにある宝篋印塔は、花崗岩製で基壇に文和三年（1354）の銘があります。高さ 206.7cm の七尺塔で、完全なものとしては能勢町内最大規模です。背後の三草山山頂にあった旧清山寺から移されたと伝えられています。



出典：能勢町観光協会 HP「のせ NOTE」

3. 長谷サイノカミ峠寛永 11 年の道標（町指定有形文化財）

寛文十一年（1671）に造成された石英閃緑石の石道標（高さ 82cm、幅 37cm、厚さ 19cm）です。「右 ニすしハ山道／たにハ銀山ありま／左ハ いけ田みち」と彫られています。この石道標のあるオノ神峠は多田銀山や有馬、池田等に通じる峠であり、平安期にはこの辺りの杉材等に使用されていたとされ、8 叉路となっています。江戸期に 3 つ同地に道標が建立されている事からも交通の要衝であった事がわかります。



出典：岡山大学情報統括センターHP

4. 玉泉寺 木造 薬師如来坐像（町指定有形文化財）

木造薬師如来坐像は本堂に客仏として江戸時代の日光・月光菩薩像と十二神将を従えて安置されています。本像は明治初期に山辺神社の神宮寺であった宝積院から当寺に移されました。能勢町における最古に属する貴重な仏像です。



出典：能勢町観光協会 HP「のせ NOTE」

5. 桂林寺 木造 釈迦如来坐像（町指定有形文化財）

桂林寺は天文二年（1548）に本寺 洞雲寺五世方外雲珠和尚がこの地に桂林庵を結んだことに由来し、同和尚を開祖としています。釈迦如来坐像は永享八年（1436）の作で、桧材の一木割刳造です。宝冠の釈迦で後頭部内に永享八年の墨書銘がみつめられます。角ばった頭部と体部の肉付きに抑揚が少なく、温かな表情から室町時代の製作と判断されます。



出典：瑞雲山 桂林寺 HP

6. 涌泉寺 木造 大威徳明王坐像（町指定有形文化財）

涌泉寺牛堂の本尊である木造大威徳明王像は、6面6臂6足で牛にまたがり、火炎・光背を負う姿をしています。像容はそれほど怒りを強調しない忿怒形で、細身に柔軟な肉取りと温和な姿は、12世紀の製作と考えられます。大阪府でも数少ない極めて貴重な明王像であります。



出典：涌泉寺 HP

7. 間中古墳群出土の銅鈴（町指定有形文化財）

野間中古墳群は6～7世紀前半の横穴式古墳群であります。野間中古墳群からは、「神宝の銅鈴」と呼ばれる珍しい美形の鈴が3個見つかり、野間神社で所有（管理）しています。

8. 吉野2号墳出土の鉄刀（町指定有形文化財）

吉野古墳群は古墳3基から成り、比高差30～40mの尾根の上に円墳2基と方墳1基があります。2号墳（円墳）からは平成四年（1992）に副葬品である長さ96cmあまりの鉄刀が出土されました。

9. 浄るり音頭（町指定無形民俗文化財）

浄るり音頭は、河内音頭のような鳴り物を使った華やかな節のものではなく、浄瑠璃本そのままの文句を、音頭調の節で語ったものであります。これは能勢が浄瑠璃に馴染み親しんできたことを物語っています。

10. 山辺神社の獅子舞（町指定無形民俗文化財）

山辺神社は、社記によると、推古天皇の時代に百済の日羅上人が剣尾山を拓き槻峯寺を創建した時に八耳太子の命で「素戔鳴尊」を観請したことが起源としています。山辺神社の獅子舞は、その昔剣尾山に大鷲の魔物が住んでいて、この魔物を鎮めるために人身御供の山の神の祭りに始まると伝えられています。そして、秋の豊作を喜び、感謝する秋祭りに魔物を祓う獅子舞が奉納されるようになったとされています。獅子舞は雌雄二頭で、「散所の舞」、「剣の舞」を奉納します。



出典：大阪府神社庁 HP

11. 野間出野の獅子舞（町指定無形民俗文化財）

野間出野の獅子舞は、能勢頼次公が関ヶ原の戦い後、将軍徳川家康の旗本となって能勢に帰国したとき、領民が歓喜して氏神に武運と豊穰を感謝して獅子舞を奉納したことに始まると伝えられています。太鼓の強弱やリズムに合わせ、獅子を眠らせ起こし、いからせ狂わせる豪放で勇壮感溢れる舞であります。

【公共レクリエーション施設】

公共レクリエーション施設としては、昨年オープンした「冒険の森 in のせ」や「豊中市立青少年自然の家 わっばる」等の野外活動施設のほか、町立の「浄るりシアター」や棚田百選の「長谷の棚田」、「名月姫の墓所」等の豊かな自然・文化・歴史を背景とした多数のレクリエーションの場があります。また、山辺川でのマス釣りや大路次川のアユ釣りや「いちご緑中川」でのいちご狩り等でも楽しまれています（表 - 1.11）（図 - 1.15）。

表-1.11 公共レクリエーション施設一覧

種類	番号	施設名
大規模レクリエーション施設	1	冒険の森 in のせ
	2	行者山の史跡
	3	豊中市立青少年自然の家 わっばる
文化・レクリエーション施設	4	能勢温泉
	5	浄るりシアター
	6	能勢町役場
	7	能勢町中央スポーツ公園
	8	能勢町B&G海洋センター
	9	住民サービスセンター
自然・景観資源	10	長谷の棚田
	11	野間の大樺・けやき資料館
	12	女郎ヶ淵
	13	大杉さん
史跡・文化財等	14	名月姫の墓所
	15	松王児童の墓
	16	信田の森
	17	地黄城跡
	18	源満政霊廟・八幡社



冒険の森 in のせ

大阪府立総合野外センターの跡地を活用してオープンしたアウトドア施設です。500m 超のジップラインやセグウェイツアー等を体験できます。

出典：冒険の森 in のせ HP



浄るりシアター

浄るりシアターは能勢町の地域文化を発信し続けている場です。国の無形民俗文化財である能勢の浄るりをはじめ、コンサート等が開かれています。

出典：浄るりシアターHP



住民サービスセンター

東地域の能勢町役場支所としての機能を果たしています。歴史資料室が併設されており、縄文時代早期から室町時代までの出土品が展示されています。

出典：能勢町 HP



長谷の棚田

静かな山あい、きれいな曲線美を見せる棚田です。夏の緑、秋の黄金色と四季の彩もみごとです。農林水産省により日本の棚田百選に選ばれています。

出典：JA 大阪北部 HP



名月姫の墓所

名月峠にポツンと残る小さな石塔です。平安時代後期に、平清盛に見初められた名月姫が、側室になることを拒否し夫への貞操を守り自害したという悲劇の伝わる墓所です。

出典：能勢町観光協会 HP



信田の森

安倍清明の父である安部保名の供養塔がひっそりとたたずんでいます。安部保名は傷を治すため愛妾くずの葉とともに田尻に移り住み、余生を過ごしたといわれています。

出典：能勢町観光協会 HP

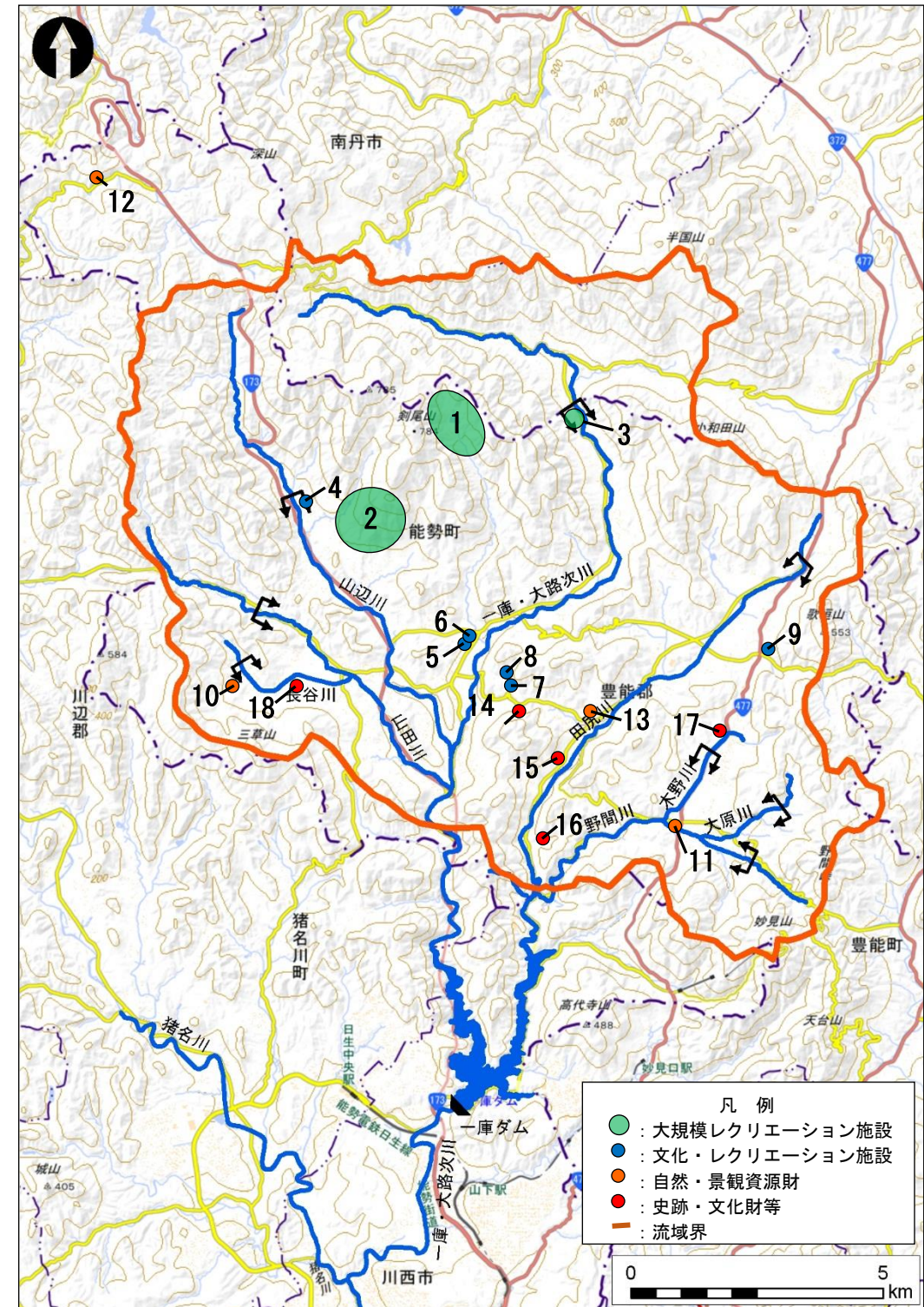


図-1.15 公共レクリエーション位置図

5) 交通

猪名川上流ブロック内には、鉄道がなく車が主な移動手段となっています。公共交通機関は、阪急バスによって運行されており、能勢電鉄山下駅(川西市)、能勢電鉄妙見口駅(豊能町)等から能勢町内の各地域を連絡しています。道路網では、南北方向に国道173号、国道477号の2本の幹線道路、東西方向に府道茨木能勢線、府道亀岡能勢線を軸として構成されています。国道173号は、ブロックの南で大阪方面に通じる国道176号と繋がっており、北では、山陰・若狭方面に通じる国道9号や国道27号に繋がっています。国道477号も同様に南北に延び、南では大阪方面と連絡し、北では京都府亀岡市に通じていますが、交通量がこの10年間で約1.5倍に増えていることや、地黄地内で非常に狭隘な区間があるため、木野川の河川改修やほ場整備事業と合わせてバイパス道路の整備が実施されました(図-1.16)。

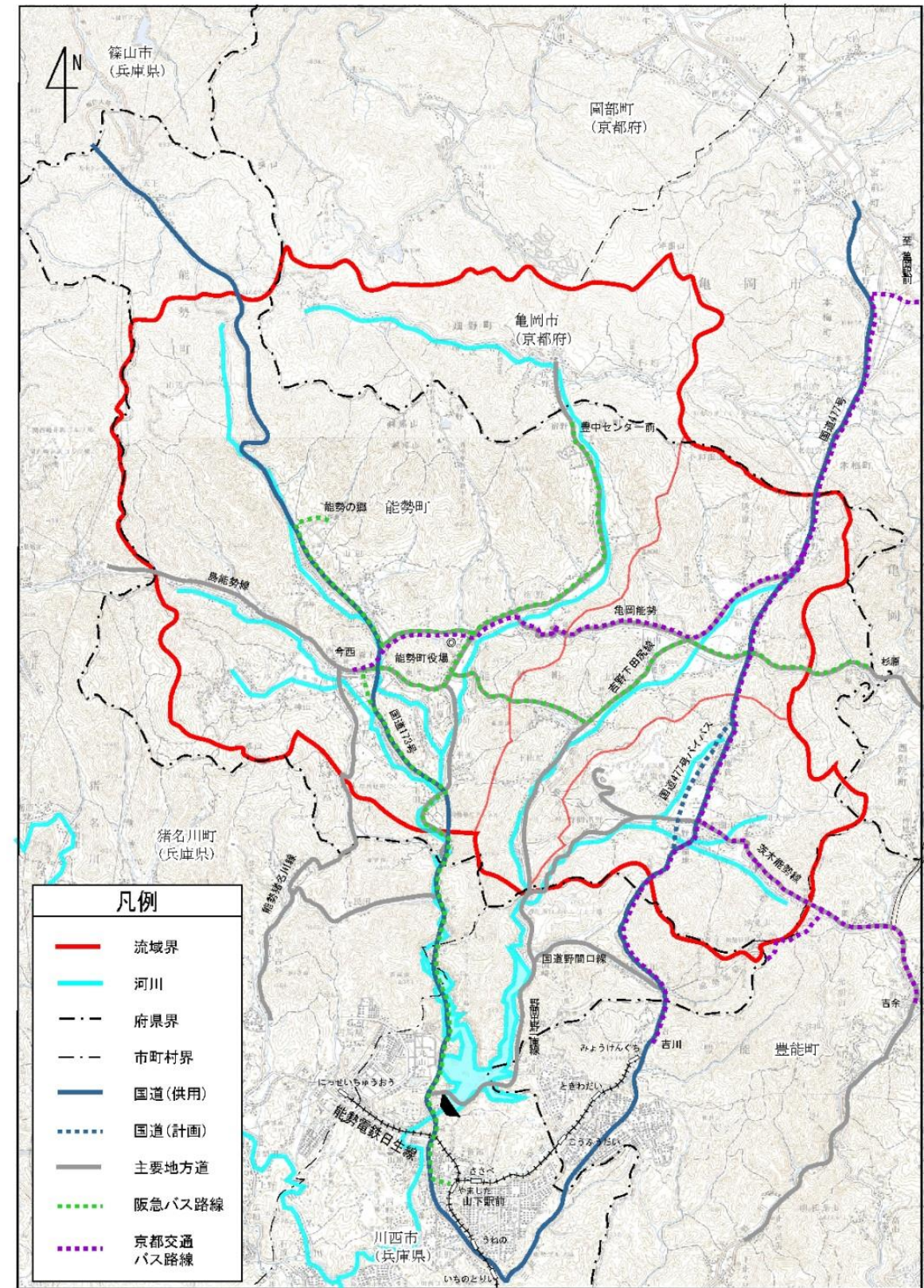


図-1.16 交通網図

3. 河川の特性

(1) 一庫・大路次川

一庫・大路次川の川幅は15m～35mで、河床勾配は1/25～1/250となっています。
 沿川の上流部と下流部は山間部を流下し、その間の中流部では、田園風景を緩やかに蛇行しながら流れています。また、中流部の一部には、民家が連続しているところもあります。河道は、上流部と下流部は天然河岸となっており、中流部ではブロック積護岸が整備されていますが、大半が草本類で覆われており、河床は瀬淵なども見られ、水際にはヨシ等の植生があり、自然豊かな景観が形成されています(図-1.17)(図-1.18)。

(2) 山田川

山田川は、一庫・大路次川の支川で、流路延長4.7kmで川幅は10m程度、河床勾配は1/50～1/100となっています。流域の大部分は、能勢山間盆地群と呼ばれる盆地地帯と北摂山地により構成されています。流域のほとんどが市街化調整区域で、山林と水田が土地の大半を占め、大阪府の中でも、のどかな農村空間の広がる豊かな自然環境が残された地域の一つです(図-1.19)(図-1.20)。



図-1.17 一庫・大路次川の河道状況

図-1.19 山田川の河道状況

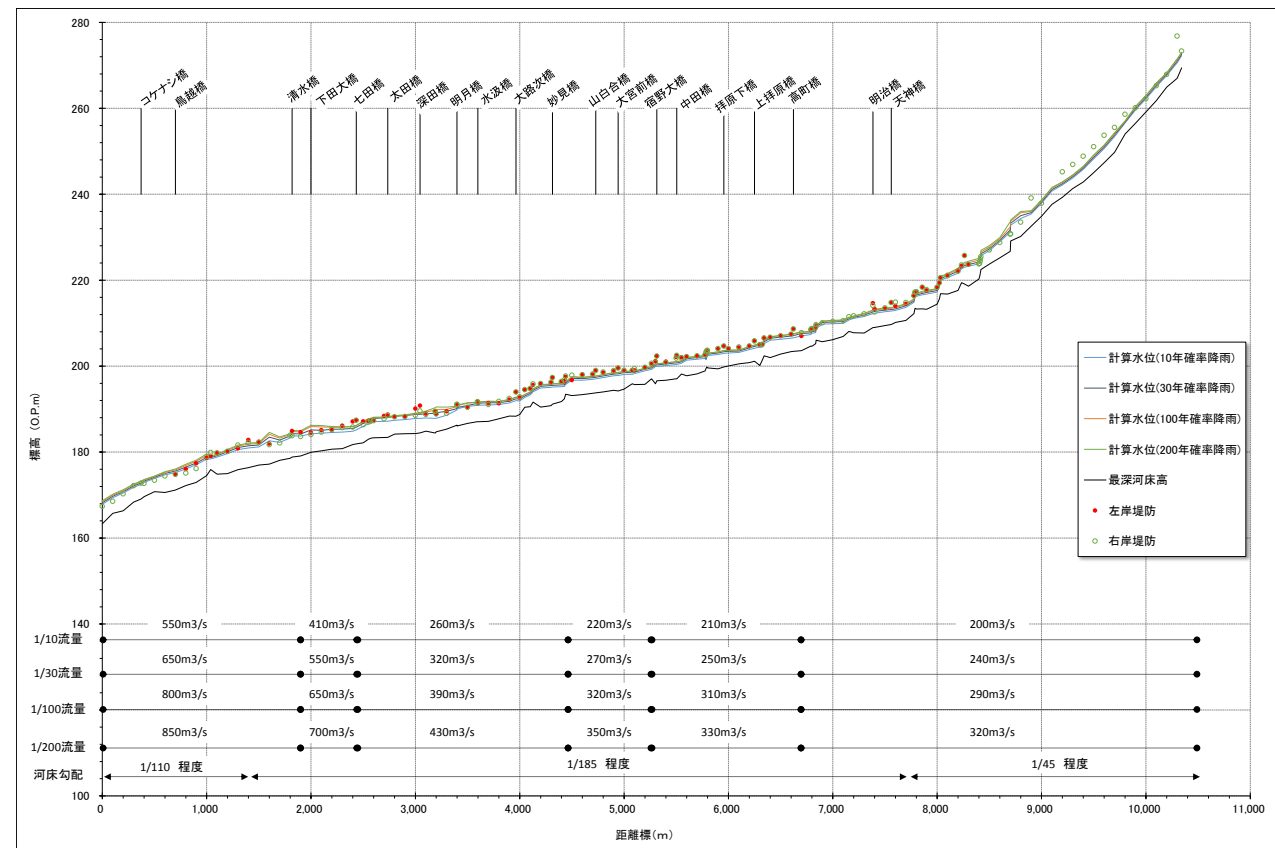


図-1.18 一庫・大路次川 縦断形状

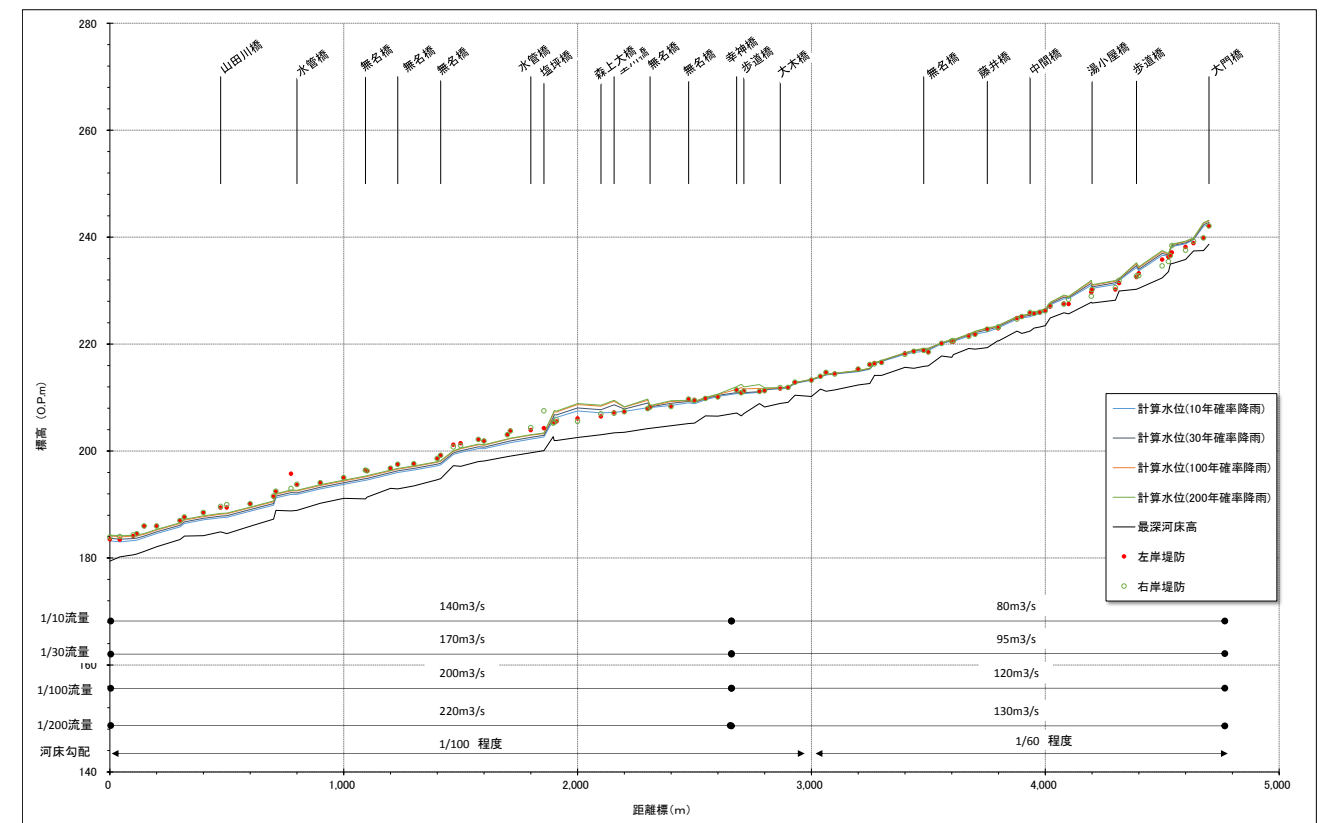


図-1.20 山田川縦断形状

(3) 長谷川

長谷川は、山田川の支川で、川幅は5m～7m、河床勾配は1/25～1/105となっています。
 山林と水田が土地の大半を占め、大阪府の中でも、のどかな田園風景の広がる豊かな自然環境が残された地域の一つです。河道内の砂州には植生があり、瀬淵などもある自然豊かな景観が形成されています(図-1.21)(図-1.22)。



図-1.21 長谷川の河道状況

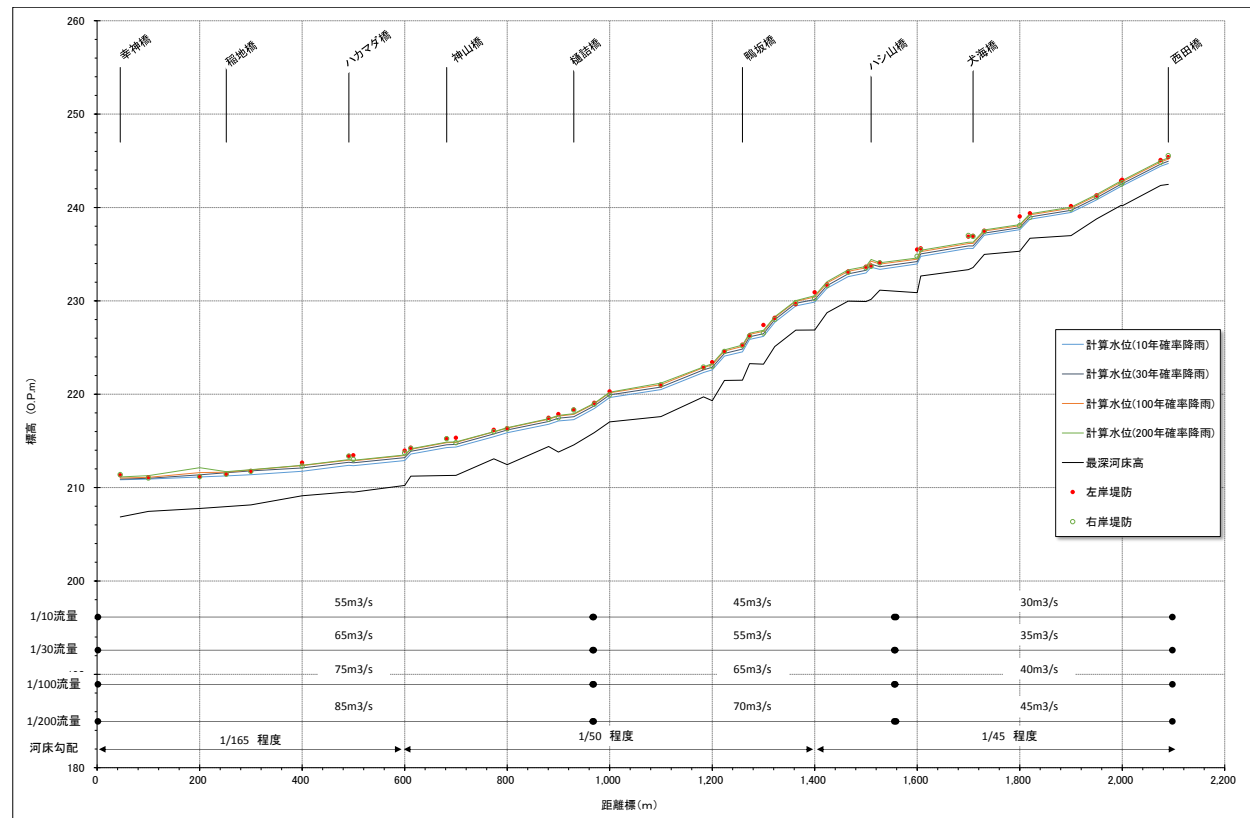


図-1.22 長谷川縦断形状

(4) 山辺川

山辺川は、一庫・大路次川の支川で、川幅は12m～20m、河床勾配は1/25～1/100となっています。
 山林と水田が土地の大半を占め、大阪府の中でも、のどかな田園風景の広がる豊かな自然環境が残された地域の一つです。河道内の砂州には植生があり、瀬淵などもある自然豊かな景観が形成されています(図-1.23)(図-1.24)。



図-1.23 山辺川の河道状況

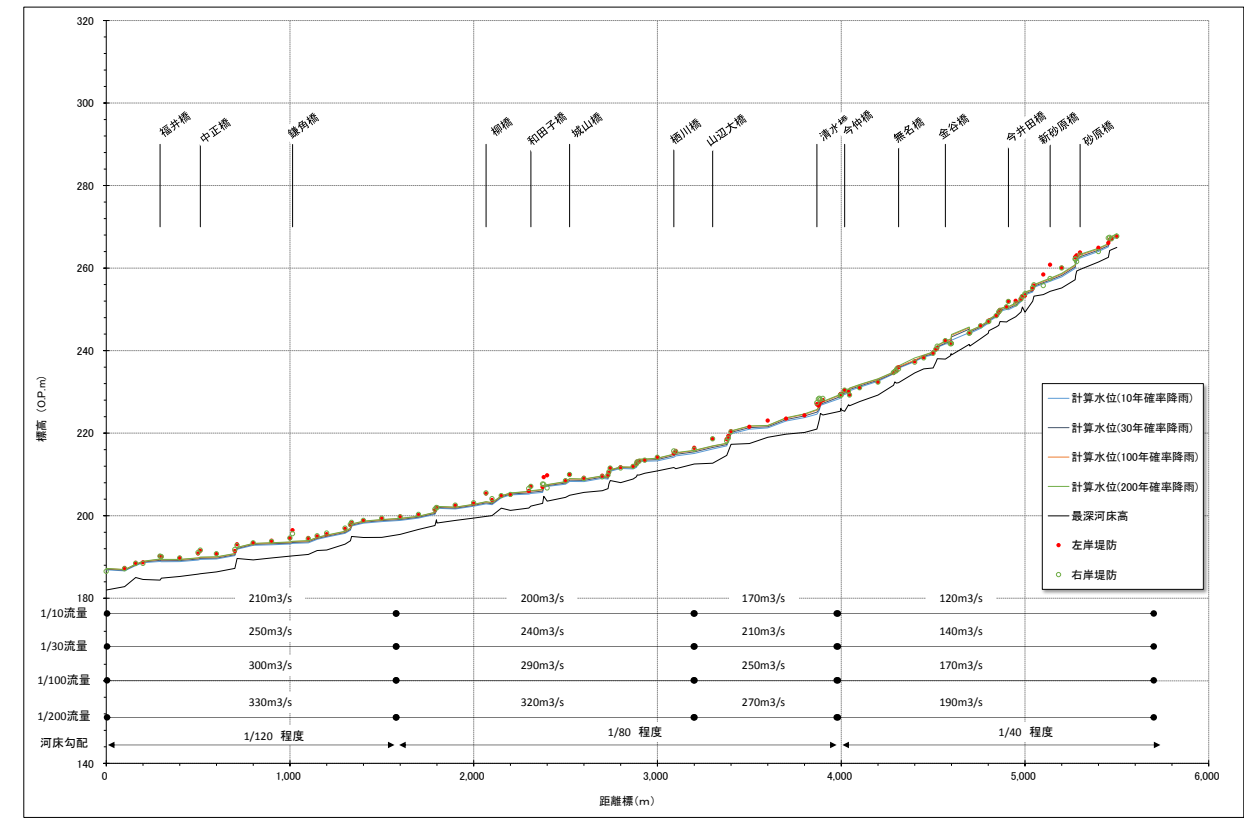


図-1.24 山辺川縦断形状

(5) 田尻川

田尻川の川幅は10m～27mであり、河床勾配は1/60～1/360となっています。
 沿川は水田利用が多く民家は点在している程度であるため、全川のにどかな田園風景となっています。河道内には、瀬淵が形成されていることや水際にはヨシ等の植生も多数見られることから、豊かな自然景観となっています(図-1.25)(図-1.26)。



図-1.25 田尻川の河道状況

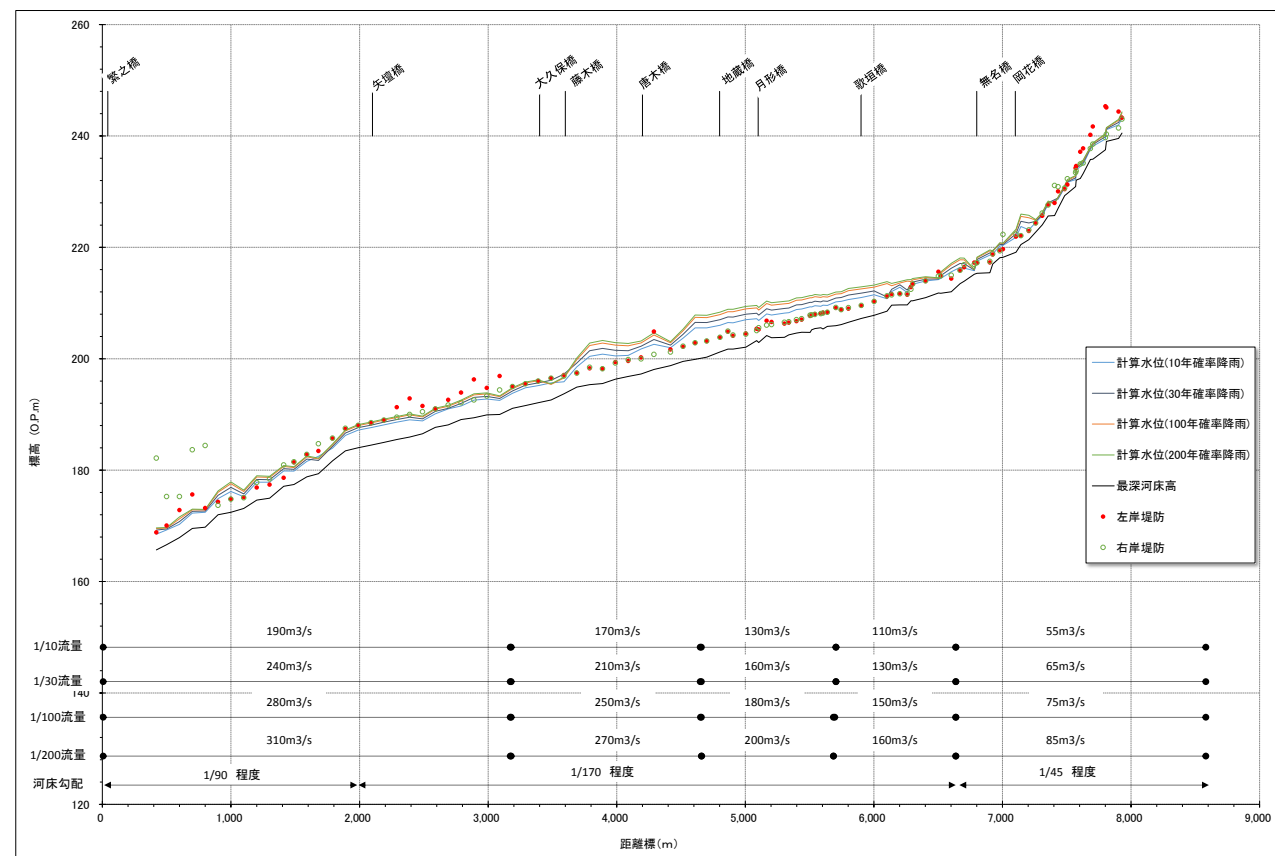


図-1.26 田尻川縦断形状

(6) 野間川

野間川の川幅は15m～20mであり、河床勾配は1/40～1/360となっています。
 水田利用が多く全川のにどかな田園風景が広がっています。
 河道については、瀬淵なども見られ、水際にはヨシ等の植生があり、自然豊かな景観が形成されています(図-1.27)(図-1.28)。



図-1.27 野間川の河道状況

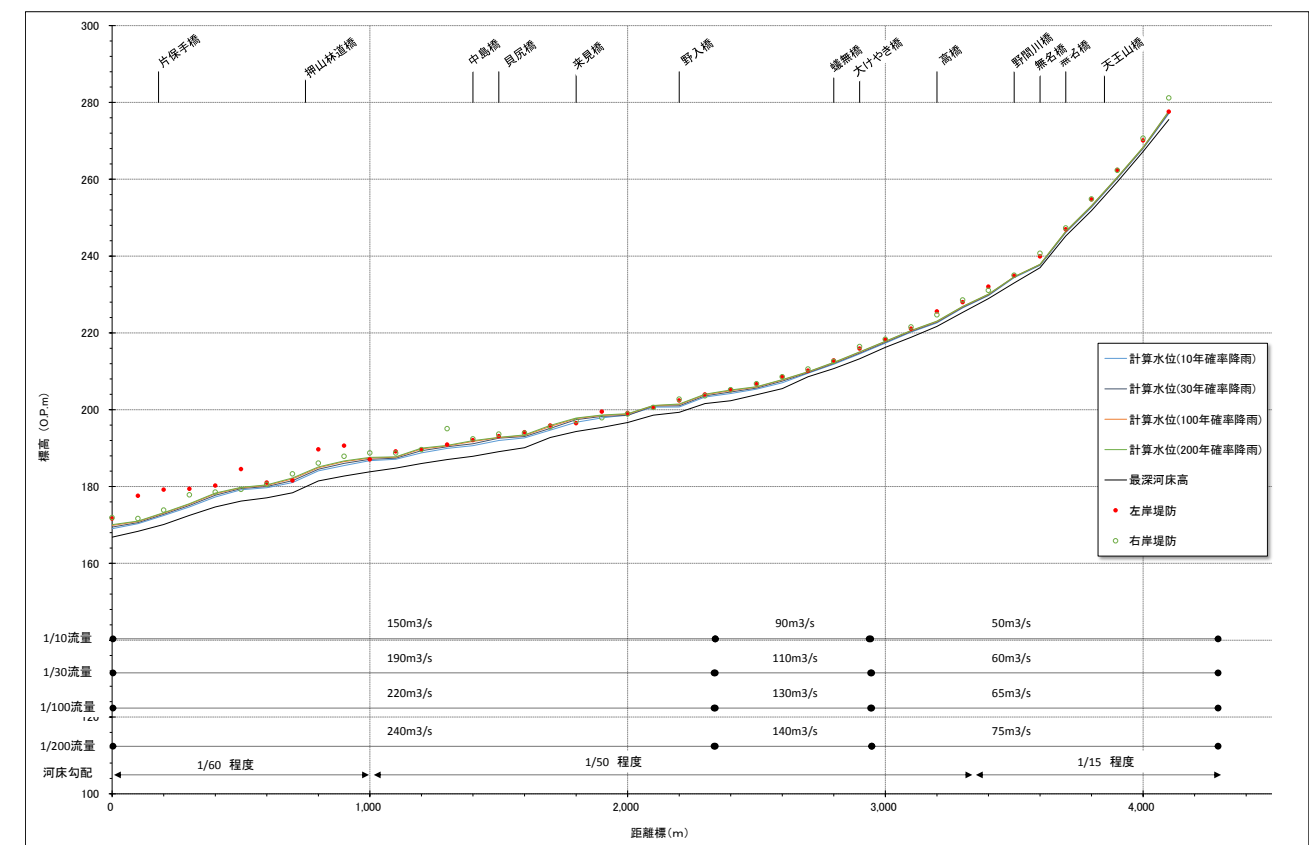


図-1.28 野間川縦断形状